嬉遊笑覽

服飾之部

七八

キ 第三號
共十八

和書門	政	官	文	庫
		七四		
		二〇	六五	
	一八	七	九	
	卅	架	函	號

和書	內	閣	文	庫
	七四	六五		
		一八		
類	號	冊	架	函

內閣文庫		
番號	和 7465	
冊數	18 (4)	
函號	184	1

国立公文書館
National Archives of Japan

嬉遊笑覽卷之七目録

東京文庫

服飾

袋を持事　一ノオ

小袖裏地　五ノオ

衣服花笑　八ノオ

石川ゝ事　九ノウ

光俊ゝ趣向　十一ノオ

僧徒のだて衣裳　十四ノオ

足袋　十四ノウ

無垢ゝ事　十五ノウ

秘本
書領
蔵之印
衣服花笑
石川ゝ事
光俊ゝ趣向

国立公文書館
National Archives of Japan

葉巻袋　十六ノウ
木綿巻袋　筒鞘　深ら　十七ノウ
巻袋　巻袋　ちゃうあ孫さし
うんさい巻袋　きき紙　二十ノオ
煙たい　巻たい　廿一ノウ
履　ぐつ　草履　廿二ノオ
草履　草履たい　廿四ノウ
ぞうり　廿六ノオ
こんぜ　廿七ノウ
足半
雪踏　履切　裏付　廿九ノウ
毛皮巻履　裏付
緒太　廿三ノウ

履　廿四ノオ
履　廿四ノウ
廿六ノウ
馬ぢた　廿七ノウ
瓢箪の下駄　廿八ノオ
杖　廿八ノウ
六ろく　廿一オ
笠　廿七ノオ
簡笠　廿八ノオ
編笠　廿九ノウ

月さき　五十二ノオ
都の百士　仝
紙緒　五十二ノウ
焼布　五十二ノオ
編笠沼草　五十三ノウ
蘆僧笠　五十四ノウ
小編笠　五十五ノウ
玉孫一文字　仝
法性寺笠　五十六ノオ
ぢらら笠　深草ノ市郎　五十七ノオ

中宿とたる女笠　孫の舞　五十八ノオ
まけ笠　五十九ノオ
ちゝち笠　六十ノウ
阿弥陀笠　螺屈　六十一ノオ
桔梗笠　六十二ノオ
沈香笠　六十三ノオ
傘　六十三ノウ
狂女の百かさ　六十五ノオ
風流傘　六十六ノウ
長編かさ　六十七ノオ

紅葉傘　六十七ノウ
青傘　六十八ノオ
壺屋傘　六十九ノウ
白笠袋　仝

嬉遊笑覽巻之七　喜多村信節撰

服飾

袋を持事

人形に出るより依の後者より袋のもちて今も

れたる所なるべし　いとも近き

近き世迄ありしなり　古事記に大國主神の

山辺郡八十神ことに稲羽國に遍ねく係旅大穴

牟遅神貢物為從者率往　又書紀雄略巻ホ

根使主を家子孫と芦渟縣主と陽

貢囊を張て　古事記傳云戎人の云

乗場の人ふかく世俗より袋打と云ふ
此故事よりもり 催馬樂庭ニ生ルカラナヅナハ
ヨキ君ハ ハレ三ヤ人ノ サグルフクロヲオノレ
カケタリ真淵云カラナツナハタバ莽也サグル
袋ハナヅナノ子ハ三角ニテ袋ノ如クナレバ宮
人ノ腰ニサグル袋ヲオノレ堂ニカケタリトイ
フナリ 今案ニ葦蘆チルヘシコレハ子ノ形四
ニ和名抄行旅の具より載たれハ古へ旅ふたり
ふ物袋より〳〵從者より齎セ給ふ西宮
記踏歌裝束條より又以衛府官人為持袋者裝束如

常ます〳〵禁秘抄游宴條より行幸之時持大袋与門
侍同車是不可然事第一也と有と云て栄華物
語ニ四位ニ云ふ袋ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
人のつ日ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
より殿上遊戯の時ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
の名ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵
師成の詩ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵

[illegible]歩行の人若しくは車に乗ずと平道なると
[illegible]法服を法袋に入れ[illegible]
の道[illegible]小[illegible]法服を[illegible]
[illegible]行[illegible]又巻[illegible]
男女[illegible]大[illegible]
袋[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]古の旅
[illegible]
[illegible]

車[illegible]いと近き所[illegible]袋[illegible]用
[illegible]古[illegible]知[illegible]長山雅[illegible]
[illegible]の[illegible]の食物[illegible]入[illegible]
腰[illegible]袋[illegible]飢[illegible]
[illegible]に食[illegible]
食物出[illegible]
[illegible]
餅[illegible]
[illegible]
[illegible]氏物[illegible]東[illegible]の袋[illegible]

小袖をかけさせ給り候まで人ハ屏風ひきし御小
人ぞしハ紙にハしらぬやうし文比巴琴等の
類ハ其より袋に入させ給ふ絵ハ包紙その
外ハ何も道大事にて候もちあつかんハ袍
御袋に入候はんずるハてける三人法師にいはた
りまするハ御を袖の上にのいきやうにさんじて
さし出候するはたかる下女二人つれて出よう御
はなれて一人をは此小うかげすしはつけこと
たせし候御はなし候ウハザシハ書札雑々聞書
云ウハザシノ献ヘエシザヲ入ルテ出持ルコト

レハ御小袖ヲ下ニモマセヒト云故實ニ女房衆
ハ無之コトシ貂文記云小御衣ニハ大畧織モノヲ
用ルオモテムキヘ出ニ平人モ此分ニテル上ザ
シノ袋モ同前ニ平人モ常ニ用申ル小御衣ハ小
袋巻ニ鷹筑波集にたび人ごの候んれど大こく
女房の袖にまうれる袋にもち長浜うの大こくの
袋抱きハ小袖をめくらしのこ小けうは常にはける
まみ御ハ小ニ一代女三貞享四巻弐附下女に小袋
をもたせし物に又女の東の人裁への知章か海
て持ち中間に待たせしけ袋を持させその次に武

武家女まてハ古代めきたる衣の余ハ袋もちけれ
ともあれしきまりしかどされど元禄以後
までもある紀ハ何も絶るるいと近き頃
ぞし今ハ武家并小僕布の衣服持のこし又
今組毛にきしくうなきしまりしたる袋ゆゑ
つゝといふ最後ふたつをいふ歟古モ袋ノ
ミニハ非ズ包ミモアリ前ニ引タル紫式部日記
フクロツヽミトアリ又源氏物語アケ巻使ノ禄
ヲイフ処御ツカヒクルシケニ思ヒタレバツヽ
マセテ供ナル人ニナムヲクラセ給フニツヽマ
セテハ衣包ミノヿヽ今ノ世ノ袋ハソレヲニセ
タルモノニヽトアリ此説イカヾ袋モ包ミモ本ヨ
リアリミヽ下学集ニ平包トアル是ソノカミノ
包ミナリ雍亮装束抄ニヒラツヽミノウハサミ
トモアレバ包ミニモ上ザミアリトミエタリ福
富双紙ニ衣包ミアリ今ノ風呂シキノ如シ揚万
里カ曬衣詩ニ亭午曝衣晡褶衣柳箱布襆自携皈
コノ布襆コヽノ風呂シキナリ

小袖裏模様　段木もん、　半領浅こび　せきハ二ゑり

小袖裏模様めくも莚響録　高橋宗直　明和四年撰　或人の問よ

常陸婦人小袖の裏に[illegible]の[illegible]
[illegible]
裝束[illegible]裏ふ[illegible]
北野天満宮舍人年嗣小袖[illegible]
永二年四月十七日祭[illegible]雜色薄青裏[illegible]束[illegible]款
[illegible]打[illegible]人年託保元三年二月十六日小
舍人童年嗣等裝束裏[illegible]束[illegible]託安元二四
二十七随身蒔束裏[illegible]束上下[illegible]束錄玉海山[illegible]
祀等に出る[illegible]ふ[illegible]晴の[illegible]流[illegible][illegible]別の事
[illegible]宮の[illegible]京師[illegible]波の[illegible]

家の婦人[illegible]拾[illegible]の[illegible]裏[illegible]
[illegible]随[illegible]東[illegible]流の[illegible]の[illegible]流[illegible]
[illegible]むし宮町[illegible]時[illegible]男子[illegible]小袖の神
[illegible]
[illegible]遊に[illegible]年宗五[illegible]託[illegible]男子[illegible]
[illegible]婦人[illegible]託年[illegible]文[illegible]
[illegible]
[illegible]世の[illegible]
[illegible]
[illegible]下摺形[illegible]

如く付たるべし婦人小袖の裏をかへり江戸小さや
りしハ安永天明比より又さんといひしものハ下
学集に輪日本俗謂衣領裏曰輪世林遊が節用集
に輪衣之一としり後小ハきぬゑりをいひ今ハ半
領をいふ寛永以前の画には小袖にもまゝりに
もこれなかりけるにや穿し但しさんハ襟のこた
張るなるべし伝霞帰の義にて袖口裾のふきれ
ど皆帰じ誰身ノウヘ明暦二年巻四今ノ世ニモ
都カタニハヒガくしキ法度ハ土メニモナくサ
レド遠国ニハ其国ノ守ノ御ユルシトテアルヒハ

キルモノニ半エリサスナヲ法度ニ之云々平家
物語に重盛公のさしぬきの裾に蛇付まとひ
しるはいへり是饗録小桜黄の裏の表へまはし
おかへしたる事といふも表の裾付帰といふも京
き裏はまはしおきておかへしたる事なりを帰といひ
なるへし年寒駅嘶余にこゝろえまり又小袖のふちといふ
ふハ小袖の裏のまはしをまはしたる裾延
といふなるの地風流ふしてまは地帰といふはし宗祇
が記に出より草子紙きなるの裾のまはし附袖
ふくまし依枕中山集ふくましが尾花が袖に萩

の花俊輝袖ふくさ八今云神口又ハ袖口
ともいひて袖口ふかくるものとも袖口と
ハいひつきふあり上ハ長き者ハ一
代女を踊子のるなりいひ要仕ふ下着ふ着
能の白小袖なおまもきを結ひ掛てもく
同五寸ハ角ゴまり川織ようきをもを
自然う野白内袴袴の帯に新文を着いむ
ふ隆の花女町ふ結ひ出掛ふ
よ合ひ扇をかざ花ふ次テ云
今キヌ着ル三領ノ方レタルヲ銭首ト云銭持ナ

リ犬子集貧乏人ハ笑ハレニケリ衣紋ハカリ銭
持首ニヒキナホシ宗二後撰夷曲集貧ケナル者
ヲ見テヒタルサニ寒サニスクムエソツキヨ銭
持クビハ石ノミナリケリ懐中重ケレバ衣前ニ
ヒケテ首スクムヲ云ナレバ今イフ銭領ハ本義
ニアラズ

衣帳花笑

寛文三年癸卯十月女院山百姫高方の山桜を
江戸の中女方小袖ふ花ふ物の限り
定めらるる事所ふ無きと雖ども何年ふ後ハと義

一 すなはち中小々まりて又百五六十年のむかし奈
後ありし事を京都の拾ひて栄華世の日の
時にいりしく衣裳ハ目にたゝしゆたかに古代よりハ色
別よむつかしき模様の仕出しのよし縫の染さ
一世にめつらしく斎しきやうよ思はれしよ
此ほど京よ土て出して其の小の細染といふを
長面と二拾ニ本よ出来も油屋き坂の本京ち末
是二十年の比と二十五年にて染を中て加賀
うまき人のならはしさ小袖に色多くさらやう
ゝ人まされはどにいとく清まりよなれなかし只紺

紺の無地にてむつかしきものを粋なる間に
着る様なりし一代様女にも小袖ある
しまかしく無様な此辻縫なとつくし紙をくにも
黒し好ミ紅に染して中形なりて不足なる元ち色
黄ハ其神祭しよみなる衣裳のきし又目せ子常の
女の服といふこの様の仕出しを縫切のまゝ
に様子撤まりハ染めたのにめよなきて中し百
色の義系様なり其この一表合子みなかりし小
しも如来の数万のものきたれ出し人の思ふ大混
小袖りさしよしれ世の其ハ又様女の下帯に社

[illegible]元孫[illegible]我物語に麻呂[illegible]の条に
つゝ[illegible]めあら[illegible]空[illegible]記[illegible]の[illegible]小葉[illegible]
んまの[illegible]記[illegible]郷[illegible]の[illegible]の[illegible]衣[illegible]に[illegible]の[illegible]
づゝ[illegible]ゆ[illegible]ゝ[illegible]に[illegible]女[illegible][illegible]別の
事[illegible]

石川の事

武野燭談に石川六兵衛[illegible]の京師の[illegible]
益十右衛門[illegible]
[illegible]京より[illegible]
[illegible]郷[illegible]より[illegible]中の[illegible]と[illegible]六[illegible]石川[illegible]女房

出[illegible]東山[illegible]御[illegible]四[illegible]二[illegible]に[illegible]の西
天の[illegible]小袖[illegible]著[illegible]
京の[illegible]張[illegible]何の[illegible]
京童云[illegible]
[illegible]
[illegible]延宴の末の世[illegible]天祖の初代この石
川追放[illegible]延宴九年十月
改元[illegible]天祖[illegible]改元[illegible]
[illegible]延宴九年[illegible]月[illegible]日石川十家[illegible]
没収[illegible]付の書[illegible]祖[illegible]三人[illegible]

川一ヶ所ニ而ハ無之ニ付不取敢仕致人集法事
如後ハ而ハ自ハ當月廿三日竜象ニ師匠田事ハ
可ニ師匠ハ如此敬先ニ成家風補ニ成ニ古ニ於云
云此遠敬ニ師匠ハ細言ニ事ハ若ハ梅ハ地ハ三廻
り〳〵拙者後ハ本中及加判ニ成ニ此ハ於〳〵曲
事ニ可ニ師匠ハ為後ハ所此件ハ此ハ年来
後言ハ〳〵中後言〳〵延宝九年八月十六日町奉
行美濃山和泉川ニ名指被下和ハ神ハ加ハ右
右ハ中ニ右ハ山和ニ名指上ハ御奉〳〵来
遂ニ寄ニ事ハ有 猪俣氏ハ芝居ハ〳〵

に享保三年和川ハ妻の田舎いたりに後死の儀知さ
〳〵深山小為れハ人ハ為義むこのと異ハ白物のハ
〳〵ハ紅粉を限ハ〳〵ハ〳〵ハ悪ハ〳〵ハ〳〵ハ
粉色ハ〳〵ハ色ハ〳〵ハ悪死ハ〳〵ハ〳〵ハ
知ハ〳〵ハ〳〵ハ色ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ

光徳ハ趣向

其頃ハ義州小享保初ハ京師ハ寄町中村内義
ハ〳〵ハ三人寄組ハ〳〵ハ御器ハ遂〳〵ハ〳〵ハ
ハ〳〵ハ京ハ内義ハ師光徳ハ唱ハ云事ハ幾
日東山ハ於〳〵諸家ハ妻室家ハ事ハ〳〵ハ家ハ妻

女も出席致し定て侍臣初め諸大名出席致
候て右之通り何れも大きに物珍敷有之旅館
と同光彩陸離と云へし扨又門前迄諸大
名小姓小者日々大勢の妻室親族親戚諸
の寮重臣諸藩の評小者等に至る迄奥
へ御入あるべき御小家物体
出来るべきまま天人新内の如く門前及妻女の
遊戯と各侍臣小者等初め中村の童角の
如く〳〵様の〳〵所〳〵に出立致され
ぞ歩り申者皆黒羽二重の衣服を西と下

小小者の如く仕り白羽織を着し
る人と家紋を附し御家の人〳〵家の
小紋有之候〳〵之分の書家我〳〵と問て
御座〳〵立〳〵有之候間に御梅雪の衣裳体
〳〵京〳〵に門前及妻女小者
〳〵に仕る黒羽二重白むく一重
の対へ何〳〵屋中御〳〵
黒羽二重へ衣服の紋所時の云及見体美
〳〵に用云
〳〵に写誠に博〳〵大きに和歌〳〵の侍女
当座〳〵美〳〵〳〵飾〳〵〳〵侍女お座の衣裳

内藤政かしの伊女ハ和の内室逢の出立ハ
りて結梅心花光彩ゝ物語ル中村の名を板
屋にて一座けかしと立寄の美酒と
（此内藤政弘ハ後ニ判後ニ正徳四
年ニ月十三日銀座年寄二人流罪ニ仰渡候中
村内蔵之助細谷太郎兵衛追放未明より与力同
心中銀座町へ参家財ニ封付壹岐守殿御懸り
松崎堯臣カ窓ノスサミ前橋サ将忠清ト執政
ノ時殿中ニテ春ノ末ニヤ有テ御ニ付列ノカ
ダリ休息所ニ下リテ下著小袖ヲ脱テ出席アリ

ニ汗バミケレバ其下著ヲ欄干ニカケテ乾ニ
ケルニ朝臣ノ白小袖ノ裏背ノアタリツキ立タ
ルヲヒロゲ置見苦ニカリケレバ其事ヲ司ル老
女ニ殿中出仕ノ下著ニ績タルウラハ付ヘカラ
ズト有ニ老女イフ時移リテ左ノ如ク仰アリ
尼衆カ一生ハナリ申サズト答ヘニトソ其比
ハヤヽ美ニナレルトイヘ尼今ノ世ニ有ベキ
トハ見ヘズ誠ニトウトキ風俗ニヤ予カオサナ
キ頃ヨテ皆人裏ハ生平ノカタビラニ浜紋ナド
ツケ高官ノハカマニツモ責キタルヲウルヲ

紋ヲツケ肩衣トシ冬ハ下著ト云モノ別ニキル
者ハメヅラシク裏ハウタヌキ小袖ヲ裕ニシ冬
又綿入ナトニシテ著スルヲマノアタリ見タリ
シカ元禄ノ半ヨリシキリニ衣服美麗ニナリシ
ヲ覚エシ夫モ今シレバ猶遠爪ノ有ケルゾカシ
又付書別条ニ平松中納言ハ薩戸ノ縁家ニテ芭
蕉布ヲ得ラレテ必中院家ヘケカチ贈ラレケル
通茂卿是ヲ著ヨトテ常ニ用ヒラレシガ或時
時量ノ許ヘコレヲモテ賜リシ心ハセヲハ破
リケリ今ヨリ後ハ何ヲカハキム其返事ニ一端

贈リ送ストテイハレザル心ハセヲハ見セオキ
テヤフル度ノ音信ゾウキ

偖徒のだて衣裳

寛永ノ頃偖徒ノだて衣裳きたる者ありしか
南都浄上人のおもしまきたる毛ぬきはを
ものにこそ〳〵りうたれ肌よハ絶まやの裕ゆあ
〳〵上よハ麻子のきハぬ〳〵に葉小袖とめ
に心衣ハ初ちりめん帯ハ天下よりうれ残ル二
條帯の百疋袴ハ上人麻の山帯ニ〳〵ゑら面ハ
ゑ〳〵ハ毛ぬ〳〵の帯ハ八ツ打よ色しやはませ

[illegible]草 寛永二年 此こうの記也
[illegible]伝師受戒のさたいまも所てう葉
の小袖きて こしまに引ハ文金銀の
平帯よりやきあり衣服にもしの深ようけを袋
に葉紅ゑ井地沢中黄頻頻のきこちやに
荷絵梨地の下駄さけかうのやなもの絵をえ
[illegible]
しゑ 市高 の絵 [illegible]
延袋
和名抄ハ韋皮履唐令云諸綺履並烏色綺重皮底

履韋皮底ゑの小沢ハ今按靴人以鹿皮為半靴名
曰多鼻豆用此韋皮二字乎下学集ハ踏皮とか
ゑ又林逸節用集ハ踏皮(タビ)靴と出ゑ靴をた
びとよ[illegible]ハ[illegible]中山傳信録ハ
婦女の[illegible]是無所矯揉或穿半襪と書る
ハ袋のもし秋齊閑話ハ襪の事ハ帯の時ハ
き衣冠の時ハ[illegible]これハ応仁孔の時ハ
[illegible]ハ今堂上に用る襪の
製ハ指のゑ[illegible]ハ用方ハ[illegible]
武家ハ[illegible]こゑ[illegible]名

今に用ゆるものは襪し襪は常の草履はも
ちばむるものを二ツ五方小角なる草履
はもしくは皮袋を縫製つくる物なり
たゞ武家はもつぱらつくりかへ安流し宗五大
双紙小疋袋の事殿中にて使ふかぐはは浮世記
はかぐ又入道用明を山克のまた物をもて記
無紋の皮袋はもべ皮をはあ可用軍陣の時はふた
べ皮たるべし

無皮はもべ

貞順故實集を人出ちくさ草鞋皮なるものは

めはもくはゆるもの和名抄に
ふ皮作なる野鼓なる高館草子は
月をもて多ひもちるもの
ちをふふんごとしもの是ハ皆也
あつちハ岡口(アクチ)ちかくふる迫ハ和名抄
に深頭履釈名云葦履深頭曰敷言其深襲履足也
もの小注小今案此間云深履其頭短者謂之半韓
とハ靴(クワノクツ)の長き物深履もふるくたり東雅
云タビトハ当時野人ノ諸唐令ニヨルニ非ズ古旅
西ニ旅人鹿皮ノ半靴ヲ用ヒ見ルタビトハ旅
ナリ行旅ノ其ナル故ニタビ
クツトイヒシトミエタリ信貴山縁起尼ノ柔

ゐるゝ也よくえたり狩猟に用ゐる物にもちゐるも
かしのたびにこれ革緒にや源平盛衰記宇治合
戦条熊ノ皮ノツラヌキ安斉云ツラヌキハ鎧着
タル時ハクノ毛皮ノクツ也毛沓トハ別ナリツラ
ヌキハタテアゲナキモノナリ

葉たび

室町日記 巻十 衣類淫交の内葉たびは経をこしらへ
為おもてに慶長ころの無紛きにおもてにもゝ
ハ京も為くはりたるの為に種々いれたる葉たびも
をたすやしたびを 有鷹築波集 巻二 ちか萩ハむ

かさ紙たびにもたれの経一正むき子葉の物なく
童一人ゆうさるゝ葉ゐいこの小袖きるしうん宗
のさし帯むうさん足袋はきたり ハ頼瀬
れ春臺独語に倩百年このかたいまの衣服をおもしい
ものふうるに衣の半かおほく江戸の人の風俗
たる弾にむかしにかはりたれはあまねしきを
めく中に茲元和の頃生れての男にも女
小袖うつて寛永の頃を年の頃ゆきそ線する
といふに男ハ名革のうちかち革は精紙矢揉と
（女ハト云字脱タルカ）しもつかきの革は襪子なるよしをかひと

きりといふもの襪子か我朝き時足に結ひて首
し也世平語に葉たびは寛文延宝の頃迄ありし
志れり色芝居に昔の娘はいふ物もきぬ足袋
を鹿切はきしとて我衣を正徳ころ迄革たびを
雅行し小人皮をはく肌に添ふ如くやすからし
鹿皮にてせむ皮しけり革行は小人より厚く
しく紫にて下品にて享保ころよりは皮一切
行しこた和革をもやむのかくなしなし立て行
し、

木綿足袋
前編 深く 雲霧だより
木綿たび う袖さし

木綿たび貞徳独吟百韻におのかもし妻のうへ
やさき衝意たりて木綿たび計り句意は
古ふよ木綿を夫もらひて新しいてやさしいか
やりたし麻を妻はおもふ物あはせしれはたま
ぐしといふ云ひは八也但し足袋を麻皮しし作
る物なれどもたびはは流し鹿と皮ぐしこ
いふ定そしは木綿たるよや色音論下かかきれた
び小袖の初しだくに行く奴婢かは北ヨ
きぬよび木綿たびにて日本かの肥前岡谷長
崎木綿うれきし足袋とても雲霧かしたいる

[illegible]ふべ業師通称物語[illegible]
[illegible]び乃中で[illegible]
年ニカヱヨ過タリ花ヲ[illegible]フニデ同ク惜ムモメン
タビ草リトリコイサクラチル雨又箱絵したる
所ノ意林庵ノ清水物語ヨリ出ルの民道ニ[illegible]
[illegible]に[illegible]びの蒲鉾[illegible]やうに[illegible]
[illegible]ほ[illegible]の歌[illegible]
[illegible]ふ喩へたる[illegible]箱絵のたびに[illegible]
[illegible]目覚草ヨリ深[illegible]
[illegible]

世物語一覧世[illegible]の踏皮ハ
たし[illegible]
ハ[illegible]東海道名所記[illegible]
この[illegible]小地の衣裏裏のた
[illegible]
[illegible]筒のたし[illegible]
[illegible]のたび筒長
[illegible]俳諧郵傘踏皮ナトノ緒ニボタニ
ト云モノアリ是ハ苍ノスカタヲ似セタル物し
絵ニアル花ニ準ジテ植モノニハナラ子ヒ云々
イヘルハ大ナル誤ナリボタニハ蛮語ビエタニ

ノ搏ニタル曲合羽ノ条下ニイヘルヲミベシ其
山ゝ大抵皮のふまへ[illegible]ふまへ[illegible]
[illegible]
又好[illegible]ノ[illegible]
[illegible]小箭流[illegible]用流[illegible]
[illegible]寛文中の[illegible]
[illegible]に簡長[illegible]
[illegible]人[illegible]訓蒙図彙[illegible]
びの地別ふこ[illegible]河内浦図等[illegible]出[illegible]
[illegible]出[illegible]女の業[illegible]

[illegible]と[illegible]ど[illegible]
[illegible]西の方小[illegible]作[illegible]中山[illegible]
[illegible]二代男[illegible]
[illegible]八月[illegible]
[illegible]
女[illegible]
[illegible]類柑子ヒナヒク鳥ト云処小
児ノ[illegible]ヲ云ニソレホドノ小ザウ立ノ糸ウヲヂ綾
ニサシタル足袋モアリ[illegible]

うしさひ兵衛一代男世間そしのあれ
ゆうしさい藏のふるたび中めきのかたち
と記又二代吉兵衛の若流の出立帯結ん
くれたりたりたる紙まび前結ようずをつ
たれと記ちゝ前結きい紙たりさ紀ハ上方言傳
ふやこゝハ江戸の事ハ知りかたり前の結きい
東国の髪ちれ市強ちハ知すさ面たひといひ
ハ茶人の好ちちや武流ハ長岡三齊ハ
毋ハ仕ちて形ハ望一
石千句朝ケヨリヌフ足袋ハ何是色深キ紫アサ

キ紋木綿武殿の言行録ハ寛文十一年七月廿日逝去
ハ小性堀ハ稽ハ
ハの面ハ藏物ハ袋ハ木履下人ハ番傘ハ
せ差ちちちハ原武ハ雑色ハ
客ハ神ハ業ハ稽ハ
流ハ百姓学ハ
う黄色ハ残百姓ハ元祖ハ
といて百姓ハ初寺町栄三ハ
れと黄色ハ袋ハ
男五左衛ハ三人目出立ハ

めのをあたひなりと云ふ味線二挺大反
をつゝ諸捨の業をあをぎ袋小細袴の下に草履を
とをえり
諸たびに　花を袋
諸たびに云ふ通ひあるべし　后日男三女の衣
裳をつゝ是菅笠の中に諸捨井雪踏を
を供ひ　寛永年間迄小児の前た
ち別に西瓜ひ　の為に拵貴又
享保以小児の皆ゝ長袖を乙庵ハ落き馬
草履○岩槻集に関草履大ゝ

小皮たびなり草履諸人皆袋皮乃中の為有
一ゝ毛皮草履ゝ毛皮ゝ　東ゝの為男女共
に用ひ小形ひ用皮ゝの時ハ切草履小
て調ゝ者ハ者板ゝ出ゝ小形ひ用ゝ
袋庵出ゝ　ハ前ゝ為ゝ
ゝ　但ゝ江戸小ハ下ゝ袋
小用ひゝハ足袋庵出ゝハ形ゝの如き
履　草履　草鞋
事物紀原ゝ履草履世詩紛々葛履是世唐韻曰扉
草履黄帝臣於則所造世本亦曰於則作扉履和漢

三才畜會に三才図會に引て云草履周謂之屨夏
謂之扉也いろいろ説あり三才図會
小ハ北文に三才図會曰扉草履也云々喪服傳
曰疏屨者粗薦之扉也是扉用草為之注云草履者
屨屨通言耳今云屨扉相形以曉人也扉と屨
との形を畜き和名抄に屨に拳び屨史記注
云屩草扉也和名和良久豆と出たりの主思義
う三才図會に西と扉をとめ
なり屨ハ今凡ゞけ江戸にて
たりまぢハ

る物なり〳〵漢土にも屨屨ともに通
草履といへ扉を
又釋名に小鞋解也著時編其上如履然解其上則
舒解也といへるハ三才畜會に号を履の
似たるなり
うづもれ又
問答草鞋ハ草に以て張
及僧家貴女之所用と挿鞋
ものなり
舞人の用るものし挿鞋

ハ皮ト申シ草履ハ草履ヤ草履ガ漢土ヨリ唐土
ヘ渡ルモノヽ類ニ嘉多言草鞋トハ木ニテ作
リテ上ヲ金襴ナドニテ張タルヤウノ物ナリ寺
院ノ内陣又ハ縁ナドハキ侍ルモノ欽鼻高ハ桐
ノ木ニテ作リ上ヲ黒漆ニ塗タル物カ但又鞠番
ノ如クニテ紋ノナキヤウノ物カ革ニテモ作ル
ト云リ鼻高ハ公家ガタ又出家ニモ用ヒ侍ル草
鞋ハ天子著之玉ヒテ臣下ハ不用但シ法中ニハ
用ユトカヤソノ外鳥皮沓浅沓深沓ナトヽテサ
マ〳〵侍ル由ナレトモ不知○金葉集ニ和泉式部ノ

加茂ノ社ニ詣テ侍リケルニ社ノ前ニ多ク
ノ草履ノ作リ置タルヲ神ノ忠頼ヲ思ヒ
ヤリテ和泉式部ノ詠ノ草履ハ
紙ニテ作リタルモノヽ和泉式部ノ
社ニ詣ケルニ多ク置タルヲ
ヨミ侍ケル　和名抄屐草履　和良久豆
ヲ作リ置タルヤウニ
廣ク作リ置タルヲ見テ
ヨミ侍ケル
○又古画ヲ見ルニ草鞋ニ
モ陸奥福島辺ニテハ鞋ヲ再
〻耳ハ左右ニ一ツ宛尻ニ一ツ合テ三ツシ建長

寺別源圓吉ガ東帰集元亨二年ヨリ序アリ其中ニ喜聞侍者帰詩ニ同人昨自遠方来脚著江南三耳鞋記得当年為客処携筇閑歩雪溪涯ト云句アリ是ナリ雪溪ハ水名吳興ニアリコノ詩ハモロコシニテ作レルシ僧徒ノ少キモノナルヘシ

六人かう

六人ハ金剛ヲ佛氏ノ堅固ナルヲ喻ヘ玩ヘシ

り物類称呼ヨリテ名ヲ付ル事ノ多キ

ら小注ハ裏ヨリ共ヨ蘭の花ハ

廿四

多ケの人議問西ヨリ

らの名ヲ付ルトイフ可笑記載ハ

仁ハ他ノ事ハ

八世ハ音ハ敵山安然僧正貴窮ニテ書ヲ求ル

力ニ依テ全剛ハ

んこうヲ世ヨ

雑書安然ノ傳ヲ

めこ者ヲ

ばこんぜ西域の製ハ

と云ヒ

廿五

佛家より出たる所の婦人安然の説を引て又は
ものさびしき山の中に平家物語を小唄にして放下
僧と称する甘露寺職人表紙合せ等を作り
初ふたやうりやいたこんだらめせとを奇
よりこれ出べき人もあらしかの名記事あり
及林の海ゆくやそなたもあけぬ蘭之
だうしいたこだらかの歌を上下解
ぶく板の如き安斎隠者屏風がるる絵げ
ものなれ是陽は行く云長きを二度けるなり
七絵もて廣さ七寸板に無作者の絵二枚は

曲に平家三位知盛四位の紙は
此玄蕃お小姓ものなる和歌光京敬上賀茂の神
社に出装束なる時中小西神宮小東武
ものが武術の後小巧を加へ今の手筋
出し武人云大和河内等のごく
たの歌を少長物語いに
六乙武
又こんぶ八こんまる兵士小物数孫子より軍西小
ものとつものまるも九多世むり六円ぜ又む
しやぎまとしい小児のとしかんむ

大金藏より大藏字約あり[illegible]大藏王接況などの
俗記こまれ記したるを合刻したるを新
[illegible]のまきものに佛家[illegible]傳[illegible]漢土
の裝飾なるこの襪なりを吟
[illegible]後拾遺 參申雜識別集倭人居處のこと
記[illegible]如鞋則無跟如羅漢所著或用木或以紬
蒲為之云 [illegible]續一切經音義云革屣者西域
皮底鞋也[illegible]屣字廣韻曰屣不踵跟也[illegible]
[illegible]これ是參申雜識の鞋則無跟[illegible]
[illegible]漢吞鳥不疑博[illegible]履起迎師古曰履不著跟也之

而行言其遽也[illegible]
[illegible]漢土[illegible]
[illegible]履の類[illegible]
六羅漢十二天等の古佛畫[illegible]
物こんぶに似たる又鞋無跟[illegible]
[illegible]小[illegible]中[illegible]常
の等屐に泥塗[illegible]
[illegible]
一種大小[illegible]
國[illegible]延中[illegible]履に似たる[illegible]

の履ハ樣小柔きもの多くこれを用又常ハ難無
跟といふて延平ハ常ハ[illegible]ハ[illegible]無跟
と云ふ是ハ踵を蹈ぶるもの[illegible]
[illegible]備[illegible]履を[illegible]
[illegible]ハ[illegible]如ハ[illegible]踵を蹈ぶるハ[illegible]
[illegible]備[illegible]後ハ踵を[illegible]
きたれ[illegible]ハ[illegible]

延平

貴須故實集上卷 [illegible]人[illegible]
小者の役[illegible]ハ[illegible]仕[illegible]

[illegible]組小者[illegible]合[illegible]
[illegible]又軍陣ハ[illegible]
の[illegible]信長記ハ根山合戰の条令[illegible]又四[illegible]
て云比類働[illegible]ハ[illegible]延(スアミ)ハ成[illegible]血ハ[illegible]
た[illegible]ハ[illegible]信長汝[illegible]
[illegible]ハ吉[illegible]年[illegible]戰傷ハ[illegible]
ハの鞘ハ[illegible]今日用[illegible]
[illegible]雜話集巻[illegible]ハ大閤ハ[illegible]ハ[illegible]
の[illegible]古法ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

是れ[illegible]大井宮町[illegible]の古法し安斎法[illegible]
少書云山伏[illegible]法[illegible]皆[illegible]延年[illegible]
馬氏[illegible]又是[illegible]小女[illegible]
[illegible]小扇切小番の代に皆[illegible]用[illegible]時小扇切又
小[illegible]の[illegible]用[illegible]の[illegible]と小[illegible]
[illegible]厳[illegible]
[illegible]文[illegible]
小[illegible]厳小二枚[illegible]一枚小[illegible]
[illegible]小扇切小[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]厳の[illegible]後の[illegible]四角

小長の革[illegible]截[illegible]寺[illegible]氏[illegible]和漢三才図会
の扇切小[illegible]三角小尖[illegible]
[illegible]は小[illegible]出[illegible]図[illegible]の[illegible]
下は今又有金以皮作者甚野鼻世[illegible]小安
斎説の扇切の[illegible]番の代[illegible]小[illegible]
小[illegible]切[illegible]截の[illegible]扇
切[illegible]扇に貢[illegible]
[illegible]は[illegible]れ為[illegible]物語三沼り[illegible]六[illegible]
[illegible]に[illegible]述[illegible]
[illegible]表[illegible]

[illegible]

雪踏　履物　裏有　鼻緒
毛皮等履

せつたは初め弗羅と云ふ[illegible]
駅伝せきるとも云ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
き作りし伝利佛と云ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふかの毛こと皮[illegible]
[illegible]
先吾中多伝を入るに革履ふ湿の年[illegible]
裏ふ平皮伝[illegible]
革履と[illegible]
人以牛皮補著屐下云太知波女宜用此字乎[illegible]
る物命今の雪踏[illegible]
[illegible]
[illegible]
履ふ後の方を破[illegible]

切ハ裏ハ紫ニ草花ヲ染タ
るゝ狩小き草花ハ表ハ無地ニ出る扇
切の紙帽子ハ紫ニ扇小草の切ハ
ハたるゝハ花ハ小ハ色ハ雪踏ハ後ニ
京袋の手ハ物ハ物ハ扇切紙草後ハ出る
昔の婦系ハ日本風土記ハ女鞋（ヒキリ）利
と譯したる是ハ九方云ハ侍ハ雪たる
人倫訓蒙図彙ハ扇切師裏ハ菓子（ワラビモチ）
ハ草の絵を書又ハ婦の女
の具ハ京革履云ハ出ハ侍ハた

ハ侍の道具ハ男子ハ扇切紙
ハ出ハ婦ハ女ハ紀
ハ調飾ハ
た男ハ裏ハ出ハ雍州府志雪踏ハ
表ハの皮溝ハ侍ハの悪ハ重ハ草ハ
ハ表ハ裏ハ云ハ
ハ席駄ハ〇雪踏
駄ヲナラヒ浮世物語ウ子サヒタビ席
ハ東海道名所記六故萬ハの扇ぶ
ハ二ハの席駄ハ扇切
革履ハ内ハ三ハ

とゝ二本はなれ山や桃花ふかせたりたい
紅梅千万せたゞ茂藤のおわき流れ安辞流流
小篇ゝ流れ入海ゝ　やう仏まゝ内千万の内庭
きゝ見面ど庭の好行らい　仏仏　ちゝだふ屋
いどまゝ庭地口雪消　其山ゝ大流ゝ物ゝ茶
屋ゝ本ゝ流雪流流ゝ雪駄の鼻緒ふゝぼう
流ぶゝ。流ふ神ゝ。ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
所茶ぼゝけ。ゝ　ゝ　ゝ。なゝゝゝ
ゝ流ゝゝ流ゝふ流ゝ流ゝ寸ゝ用ゝ
ゝ流ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ別ゝふゝ

松ゝの雪流ゝ流用ゝ流ゝ婦ゝ踊ゝ行ゝゝ
ゝ流ゝゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ
ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ流ゝ
たゝゝ内丹前ゝ流ゝ毛皮ゝ小袋ゝ流ゝ娘流
ふゝ流ゝ流ゝ神ゝ流ゝ流ゝ紅花ゝゝゝゝゝ
流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ○分小児の雪流ゝ毛ゝ皮ゝ流ゝ流ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
謙信ゝ信長ゝ勝ゝ出ゝの内流迎の毛皮羽織
ゝ流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
○家の士流分雑ゝゝゝ
雑流ゝの合戦ゝ少遠可申ゝゝ諸艶大謙二

大なるわらじの草鞋皮毛重鞋とまた記したる文八字
挽正徳の江戸雀跡末本に載せたるその頃よりや地
草子
童話を賞しける詞 但し既に諸を難じけるを八念
芝居に女房集て袂の如厚なる人紙に於て大津
を記あしてやうやく生杖（イキ杖カ）に倚りて下行の人の既に八かる
孫子帯して来たれ物にきれたる中の感皆にしに行世
に在判を記せしめにも見ゆる〇惺窩文集道春に
金剛経の口義を頼み此二首文の書きて書し捨る
前節に書かりて佛の道に叩て相しやこむづかしき
家之さ前本よりし歳にまむ大乙がりまやらぬぞ

きづけ紙をしでもしつらむ所しのふみ塗き文さ
のみにおふの物語 下 寝泉ゆくしこんがり太史動
至紙に芝為すみ 三十文にして之乃然も刈み乙がり
におもくこ文とそうその紙三旅とめうそ出きたる大
史の丹鉛録陸放翁詩遊山雙不借取水一軍持不
借草鞋世言價錢不須借世新録云陸詩芽林雙不
借楊作遊山誤見瀛奎律髓山岩類又履亦名不借
まゝ委巷叢談に杭州にて隠語を用ふる紙以て
に諱低物為鞁以其足下物也復諱鞁為撒金錢 云
云 世の人心一巻 京良草履西とニ足三文に仕舞

と古履を戦文に用ひたり○[illegible]
[illegible]の音なるべし
事は[illegible]日本風土記に僕人外挈俄(ゲガ)とある
は[illegible]
心[illegible]衣(ツイデ)と云者[illegible]冠[illegible]
[illegible]は要語の治安策引古語云履羅鮮不加于首
冠雖敝不以韡履と云[illegible]

緒太

緒太は續武家制談毛利家の内室上京の時
興[illegible]後小緒太の上履と置なり又細緒は一代

男七[illegible]中好[illegible]細緒色三味線二細緒の[illegible]
履[illegible]又一代男二[illegible]物類
称呼に江戸[illegible]作法に外[illegible]
[illegible]国[illegible]
所者は市皮[illegible]
たる付は[illegible]
市の皮[illegible]外は江戸[illegible]平延[illegible]革履は[illegible]
革履の鞋に蘇[illegible]

凡陸[illegible]

凡[illegible]革履[illegible]東町場[illegible]中[illegible]
[illegible]向[illegible]緒の[illegible]反不[illegible]の[illegible]に

たるなるよし物語りて其衣小袖を後享保の
時代に常の女子の女の裏分まで寛
保年中に宝延二年より三枚の枚の裏分
出来同三年止らるべし

履　平所五

履ハ足下物（アレタ）盛衰記 廿五卷 あしだ
平所の寺の蒔絵小袖平六と云者
所の絵巻に甲道具の所にあり
江戸にて下駄なり又日書 十卷 遊女冷
ものあり馬の上に履をはき

たるなり又 十六卷 所にあり
陳の所絵巻に馬の所にあり
に高下あり甘露寺藏人あしだ
有点足袋のまま歯の脇（ホリ）の方に出
歯一枚ふりあり二つ有鼻緒
物絵焼の画を画
おもしろし無沙表小出しまる足下ハ天和
貞享ハ頃の美子の画
清ちまて
本草綱目履屧江南以桐木為底用蒲為鞋麻穿其

鼻江北不識世ヒコレ今イフサウリケタヽいふな
り和名抄まつ鼻縄としヽ俗小労ぞれと横むれ
休と云横を云をといへいふあるよしいうし
たの名を出ししすみ綫露卯といへ宋書五行志鳶
為屐者歯皆達𥳑上名日露卯太元中忽不徹名日
陰卯うしこんもとこの名ども鉄条しくつなぎしも
こゝの名数称呼まあした棄駒及西風みえぼぞり
又奴そりと云中国みえ渡海て又みゆぞりと云物
そ江戸まていふ下駄のよし奴そりハ木履の名
非称しさるゑれど似よりたるまゝ也三才図会

小中有木者謂之複舃自関而東謂之複履ヒヨリ
下駄ノカラ〳〵鳴ル音ヲ閣々然トイヘリ五雜組
ニ閩ノ興化泉漳ノ三郡ニハ屐ヲハキテ草履ヲ
用ヒズ婦人多クハ纏足セズ女屐ニハ彩画アリ
終日屋中ヲ行テ閣々然タリトイヘリ琉球ナト
モコレニ似テアシタヲ常ニハクトミエタリ中
山傳信録屋舎ノコヲイフ処入室必脱三板トア
リ三板トハアミタナリ又婦女ノコヲイフ処足
無所矯揉或穿半襪或著三板コレタビヲハキア
ミタヲハクヽ

第八

多くは撰集の一卷に出る歌女の名は伝ふ
まゝ書るゆゑ多くは詞書をつけなしの詞書をはぶけ
ぬ也但しさいの物語和名集
其他名所なるこゝ云
るは漢し下よりの内裏定家俗称山神寺別当よ
なりし歌言葉多くは紀貫之ばかり
多為し所詞に為
言葉なり月九月きりげなるあらはべる
ごのゆゑいとあさやかなれあり文なりもみ
たるけしきはやうかをよつちおか
ゝ侍はまきて皮は土のつきたる物を

皮ゆを色こゝろよやまをとよは歩べうばけ
いしは和名抄漢語抄云屐履久都々計乃阿之太
一云履子とある履子は音を呼て通用したるか
てけいは鼠尾草多きはいしるたいるる
をつ名のあしだなれむの茅屋ぞ行景清
草子ふるいはしりあるあるよ多き物
ゝ見多いちこよいを○古事談巻二隆国卿
宇治殿小弟ゝに小馬は乘駒馬行ぞ出
入きゝ行ゝ大れいるふ小馬は是駒ゝ小
は可尚御免ゝ有駒馬を駒ゝいふ義ゝ

どにあるを足下ハ本義なるに古くより足跡と
いたがし満ひて称へしところや後世になりてハ足駄
席駄雪踏なとハ下駄とも云なとし下踏さへ出きたり足駄
踏の字義ハあらす足下の本義ハ失へり

馬ぼた

今駒ぼくりと云ふもの昔ハ馬ぼたといへり　懐子続
猿集　八　こひ雪ハふるしや長袴次の内庭の雪ハ小ぼり
馬ぼくりの跡なくて　童供　脚筆甫五冬ノ日和ノ道
ノ為ニサウリノ裏ニ木ヲ付テハク事仕出シケ
レ氏コレモツバキテ世ニハヤラズ西陣ノ后の
冠付たしろ拵へ曲禮ハ花のる柳下駄にこれ駒ぼ
武衣小寳永ヶ誌上方より誌くの塗下駄と下
を陀女下駄こけたれ和泉町新道にけるかれ足駄
作りの上手あり江戸塗下駄をけるかよりも嬢る
然れども芝井役者ゟ紀たり平人ハ用ゐて松
の葉浴衣をうちかけしひに浄るり出しれど松緒
はあしだの作りし留よい庇とかよ云く

瓢箪の下駄

続五元集に杉詩の神ら　様人の月夜に見る瓢箪の
履ゲタうちびたり瓢を庭げにて作りたるかし在履人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杖

杖ハ曲礼などにも大夫七十致仕則必賜之几杖
[illegible]後漢禮儀志ニ曰 中秋之月案戸比武年始七
十者授之以玉杖長尺端以鳩鳥為飾鳩者不噎之
鳥也欲老人不噎武年七十者授之玉杖々端以鳩
為飾[illegible]人加爵行旅具[illegible]年[illegible]者
にハ[illegible]見聞集巻六[illegible]ハ今江戸[illegible]
六七年以前[illegible]杖[illegible]杖又案
の由ハ[illegible]
[illegible]
に負[illegible]江戸町[illegible]

り初ませい道をなれば若き人達宮ゝて
炎天の日のまき小枝をつき杖と頼小人の母耳
まれ捉されたるが如くなる振舞云小能行中暑
梨を枝とそなへ[illegible]梨枝なくたゞの方ゝ
きて枝をのこし法心人小たゞ〳〵て梨ごと
く枝つくこれいて〳〵ゝ愛小六七年ゝ
るい慶長の末ゝ〳〵宮永初法ゝ〳〵
〳〵ゝ十芸ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
た竹枝ゝ花護山三年ゝ土佐浄ゝ
小法きなるゝの沖ゝ流ゝ若故ゝ心

た寺ゝ枝法宮ゝ寺枝ゝ元隣ゝ宮会ゝ枝
の除ゝ〳〵ゝ法ゝ病ゝ病流ゝ
小〳〵ゝ乳ゝ〳〵ゝ世法
苦ニガ世ゝ枝ゝ国ゝ法ゝ栄ゝ法ゝ
おゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ一代男若
歩人枝下〳〵ゝ栄ゝ法ゝ世
大ゝ〳〵ゝ小ゝ〳〵ゝ法ゝ世
ゝ〳〵ゝ諸歌ゝ二ゝ
ゝ乱ゝ法ゝ色ゝ法ゝ枝法ゝ永
代義四ゝ法ゝ世ゝ〳〵ゝ二十ゝ
元禄ゝ市枝亟ゝ中ゝ柄ゝ傘ゝ世

[illegible]

杖カヽレバ今俗撞木杖トイフモノ〳〵平家物語
ニ老僧カセツエノマタナルニスカツテト
アルナドハ古画ニマタナル杖ヲツキタル
サマタクネエタルニミナブタマタノ方ヲ地ニ
ツキタリ彼横首ニハアラズカセトヽ云名義ハ詳
ナラズ古語拾遺柄作持之トヽアリ和訓祭ニ
今モ織紝ノ具ニカセキトヽ云モノアリ祝詞式ニ
金ノ持ト見エタルヲカセヒトヨメリ大神宮式
ニハ金銅ノ賀世比ト見エタリ持ハ弄ノ俗字ニテ
テ聖武紀ニハモテアソブト訓セリ真字伊勢物

諸クリカヘシヲ持返ト昏リ思フニカセヒヲ使
用ルヲカセグト活用スルヿバナルベシカセヒ
トイヘル器物ハ枯木ヲヤウナル形シテ鹿角ニ
似タレバ鹿ヲカセキ尾イヒシニヤ唐ノ鹿頭柵
ト云ヘル物ノ名オノヅカラ似タリ著聞集ニ猿
ヲ木ニ追ノボセテカゼギニ射タリト云処ヲヨ
クミルニ木ニ射ツケタルニハアラズ猿ハ上ヨ
リ矢頁ナカラ子猿ヲ抱キテ落クルヿヲイヘリ
思フニ矢ノ貫キタルサマカセキニ似タレハナ
リ舟ヲ係ク戒狗ヲカシトイヒ刑罰ノ具ニ杜枷

テカシクヒカシト云モシトセハ音通ニテ其形
カセニ似タル故ノ名ニヤ今俗ニ物ノ斜ニ傾ク
ヿヲカセグト云是モシ古言ノ存リシナラバカ
セギニ射タリトハ横サマニイ落シタルニヤカ
セヒヲ用ルハセハシキモノニヤ後世四民トモ
ニ業ヲツトムルヲカセグト云奉公ヲ求ル浪人
ナドヲカセサフラヒヲ又カセモノトヽリ鹿杖ニ
マイノ鹿角ヲ杖頭ニ付タルモノ古画ニ見ユル
世ノ徒コレヲ用ル〻

たちく

古き小歌ハころくとりあつめ糸井初西抜中巻ハ
ちくぶしこ詠ハついたる所のつゐこらくりと
ハ志やくもちなかハふ元ハ大抵ハ貞観ハ志ま
しのゆふてゆゑくたゆころくハ又下巻こ詠ハ
まれハまのこゆころくもちさそもされ
ふきむころく世小ゆ古ゆあ志くりく後ハ
まれたるさハき今ハ弥ゆ志くハ松の葉
三巻ハちくほつこうくつ白ゆあつ志ハ
ちくもとハ志やくもちれのゆ和りやうちゆ
ゆりふ元こちくもゆ志ハ一筆ゆ志くハ志也

んとハ此ゆ志ハ古ゆ志れたまつ引ゆ遊ゆ
つゆまりらハくまくふさたハ志ハまくせ
ハ一ゆこ元こ引ゆ志ハ弥ゆ志ハふゆの志くゆ元ゆ志ハ
ハれハまりて伊達の小ゆ志ハ弥ゆ志ハの所ゆ
一まゆたくゆ弥ゆ文ゆ志ハ弥ゆ深ゆ小ゆ深ゆハ
ゆ世奇にゆくハやゆ又延享中成ハ六ゆハ定
居役ゆ志ハ西條の肌ゆきに紅白の左ゆ巻弥深く
巻たゆくゆの名ハこハハ紫一本永川大明
神条小六ト云ハ赤坂一ツ木村ノ馬カタ心義男
ニテタテモノし風流ナル出立ニテ馬ノ口ヲト

リ京大坂マテ通アリクノ小六生レハ両ノ国ソタ
チハ関東ノ武蔵野ニ住ト小ウタニマテ謡ハレ
ミ小六ヽ此小六氷川大明神ヲ信スルヿ浅カラ
ス此処ニ大明神ヲイハヒ奉リヌ小六死テ後コ
ノ宮ニ葬ミヨリ小六ノ宮トヽ云ツトフ江戸鹿子
氷川大明神今井村赤坂筑地別当清徳寺云々日
本紀ニ高天原ニナリ出ル神ノ名ヲ天御中主尊
ト云次ニ高皇産霊尊ト有テ天八十万魂尊ノ子
ナリ云々六月十五日ヲ御祭日トストイヘリ按
ル二日本紀一書ニ天万尊生沫蕩尊トアリテ八

十万トハナミ高皇産霊尊ハ天御中主尊ノ御子
ナルベク天万尊ノ御子ニハ不ハサズサテ又同
書氷川明神ノ次ニ同社一名小六社ト云武蔵国
一ツ木村別当大乗院ムカシ蓮村僧正トテ東国
修行ノツイテ此処ニ一夜ヲアカシケルニ夢中
ニ老翁来リ云我此土中ニ埋ルヿ久シ早クホリ
出シテコノ処ニ安置セバ守護神トナルベシト
見テサムルニ金色ノ光アル処ヲミテホリ出セ
ハ十一面観音ナリヤカテ此処ニ社ヲ立氷川大
明神トアカメ奉ル神事六月十五日トアリ取カ

ヘバヤニ宰相中納言ニカタラフ処ムスブノ神
ノ契リヲタカヘ女サマニオボシナリ子ウツ木
物語樓上人シレスハスナノ神ヲシルヘニテイ
カヾスヘキトナケク下ヒモ古事記上天地初発
之時於高天原成神名天御中主尊次高御産巣日
神此三柱神者並独神成坐而隠身也トアルヲタ
カミヲ碁シテムスヒノヒヲ五音通シテムスフ
ノ神ト云ナセリ又仏業三発菩提心ヲ
ハ遠ルトノタマヘル仏道ヲ修ス
ルモ大キニ仏ニ合ル為ニ
以踊字ノ文字浮ル所ニ
ふむら孤の庵ふ世儀ヲ我ヒ物ふるいやよ
とをり歌入り事お庭生ル一妻振今少に汗ル
流ル三十年ヲ孤海ル作者の公芸道ハ孤
ふ芸ヲ〳〵きる〳〵孤統我ハ宇治の大史ら諸
作ふと色一ふい浮ら孤門ら多つら
〳〵あ〳〵如ちでし出ちる常ら多〳〵紫一本三ニ
谷ノ係物ノ本ニサビシキモノ道鉄カ鉦ノ声ト
アリ今ハヤル与作ブシノ小歌ニツツチデウテ
道鉄トウタフモ此寺ノ十〳〵彼大徳〳〵ハ人
の名めら〳〵て作ら た歌ら 俗ら を始めら を ハよ

て実（マコト）に赤松の樹皮を布袋竹に被ふものなり
の如く節の間五六寸又は四五寸なるもの多く
は五六丈に及ぶ流球より西国に
東国に移りたるは世に西の出る所小豆島
流球迄に出来たるは慶長年間に
つくりたるものの小豆島にて流行だと
江戸にて武蔵に行きいまだ天八
幡宮筆の軸と云ふ物にあるなり
あらされたるいつれ武蔵にて
太和本草巻九流球行きこさん竹

堂云流球より来りたる太さ拳程の
ものにて赤の如く節間或は近く或は遠き
ものは五六分遠きものは二寸一尺の間中遠
近ありて此筇竹に比すれば漢竹は
人面竹羅漢竹等にて赤に似たる
ものなり松の用ひ方漢竹に被老赤節竹等
り○又按ずるに竹は洛陽集に梅や竹能き
まず栗の雪春嘉これを馬子（マゴ）の雲仙の何も物き
右弧さまざまに如本男弧いて月集三月
三日 柳橋子作解に時光

[illegible]のうち[illegible]書の[illegible]小廣くい[illegible]を知べし
[illegible]を小好色つもり亀山に花の六歌[illegible]仙
子宮小[illegible]の育[illegible]中山[illegible]ゆうてうか
[illegible]事育[illegible]云[illegible]ば神祇ふれば古[illegible]
[illegible]い[illegible]小悲[illegible]波女の[illegible]紙養ひ[illegible]病[illegible]
[illegible]中畏宗の小波[illegible]い[illegible]ゆ[illegible]ば[illegible]女[illegible]
六歌小[illegible]て[illegible]山川[illegible]紙て亀山[illegible]
二度と人小波[illegible]ば[illegible]
[illegible]紙の[illegible]
小六[illegible]やいぶう[illegible]世[illegible]山[illegible]東海[illegible]

丹波与謝郡より[illegible]時い丹波亀山[illegible]又[illegible]の小波
んをは丹波与謝の偏[illegible]
[illegible]

笠

和名抄毛詩注云笠[illegible]名靴反加佐和所以禦雨也也有竹
ハ篥[illegible]小身[illegible]紙[illegible]
遮るものなりしど蘭笠ハ[illegible]日[illegible]に[illegible]用ひ
[illegible]邊[illegible]ハ[illegible]日[illegible]又笠
縫[illegible]紙[illegible]
[illegible]名百小笠縫の里[illegible]又浦[illegible]甘

寄寺擬人を笠随の哥 詞花 山しなのおのて我とまねくに
めん笠ぬひのこさう渋しける秋萩の月に売しくて
うちゝたふそる傍見ゆ笠まけるかぬるハいくう
然しからむつま孫笠ハ蓍めける旅の笠坊いふ感哀
記に法ほて文市女笠といふ笠料まち婦人路
笠とかこへ
坊乃小衣(きぬ)をつはれし武笠坊を傳古画にも多
し遊のハ笠とハ敢坊まつといふて太平記師直
被詠条にも出非笠ハ菁步集天竺冠者行笠坊着
しるをいへ出まる笠ハ石の本けれんなる也
る臺をかそしたり 詩経都人士の章に臺笠緇撮
といへりまけれの笠ハ本部にて

菅坊まけともるハ後代菅ハかゐくまけれ蓑内
に似るハ山菅もしく蓑衣草といへり
宮長暦送官符菅大笠貳枚柄長各八尺五寸径六
寸二分黒漆平文云々骨二十枚漆塗骨末押金薄
其體如蕨形廻曲各廿枚云々 笠口径四尺六寸二
分これハ登式安宅謡曲なとて菅笠ましく旅坊かく
おふきたし
しいとも菅坊なやに編そふやらしハなやね笠
の様なりむ

藺笠

藺笠ハ延喜主殿寮式小蓑二十五領藺笠二十五
枚とえへ文安御即位調度図の中に藺笠なりと

の旁に蘭笠上菁槙柳也法たり槙柳ハ云ら
の假字なり眞
物ハ槙柳ハ行ら云ハ桜櫚の葉に似たら
本草に蒲葵ハ太和本艸に日向及
肥前平戸ハ多し肥云ら
後ら云ハ有
可為扇笠ら法いらたい扇ら古画ハ蒲蘭笠
ハ云ら法菁ら法雨ら防くらら為ら
蘭ハ和名抄ハ為ら訓ら夏の表ハ織る草ら大
れ法編ハら是後為笠ハハ鷲本本草物語笠置
寺縁起ハ天智帝の皇子田猟ハ蘭笠を為法ら
を又摂津國ハ屋寺の滝を盗人のらたる初於
に後蘭笠頭ハ急ら下霰法ら法ら法ら

こ也増鏡ハ資朝を山伏のまねら柳の長ハあ
やハ笠ら云ら法ら為ら為ハの誤歟古へ
ら此笠法を使ら為ら為ら後三年合戦後
ら法に法ら法ら田乗法師ハ法者る今流鏑馬
射ら射ハ笠ハ法帯ら法ハ田乗法師の笠
ハ御ひら法ハ田乗法ハ法帯ら法を婦
ものの笠をあやら為笠ハいら法ら後ら或
ら麦ら法ハら法ら法ら或ハ法ら法笠後
世ハこの射法ら法に法の法ら法を絶ら
ら法に法へどハ世の法ら法の法ら法ハ法編笠ハ

[illegible]

編笠

著聞集廿一一条院少秘抄の書に保元の頃上下よりつゝ笠着たる人〻太平記十一に後醍醐帝の義人なる由に被召草鞋小編笠着て義経記六判官殿の一人ばかりの事〻伯[illegible]

[illegible]

[illegible]

カ子細ハ之ノ詞ニ南鐐ニテウチイデケロキトカ
リ仙トハ銀ノナリ又有時の月ハいろ山ゑ
ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵や知〳〵ゑのきゑるうさゝ紀あゝ笠ハ
ハ行ゑ廊に出出つゝ張笠の平たきあゝ乃俄か貞徳ゝ油加須ゑ信
ゑとゑゝやいせゝ計ゝ詠ゑて ゑる行ゝ笠の孫
ハ水月ゑゝいせゝ行ゝ笠 京竜に老たる若きゝた
の若ゝたゝ伊勢行ゝ笠 東海道茶屋紀
傳町の傳ゑ若男女いせ行ゝうさ逝江ゑ笠紀
箱たるゝ行ゝ竜音論ゑ下あゝたき山代の行
りゑゑたれゑきゝゝ教あゝ笠ゝゑゝ

月ゑゝ

正章千句二階の月小野小町ゑ霧を
る箱笠月ゑ紀うさ 二階ゝ笠蓋ゝ月形ゝて笠乃
ゑる月せ紀ハ月の細ゝに行ゝゝ教編笠

都の富士

西崖大鑑三旅のゑゝゝゝ吟花出乃大行ゝ笠
紀ゝつゑ伝れたるゝ歳山の児若元ハ貞享四
辛正月教彩

の茶
子じ八文叅ゟ弁三郎二大石内蔵太郎出立ハ
士と川ゟ大内ゑ笠ゆたに為て見ホ事ハ
おゝ

紙衣

あゝ笠の衣なしむ〻ゟ質素なる事ゟ〻
一代男五懐ちゝの茶宴人ゟ〻たゞ
ゆゝ世ゟ枝ゟ編笠の緒ゟ〻ゟ〻ゟ
紙ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ編笠の下に紙の長羽ゟた
る古風ゟ見ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ
ゟ東海道名古屋ゟ高人ゟ〻ゟ〻ゟ笠の
ゟたゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ

ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ

焼羽

ゟ〻ゟ笠人ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ
ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻

手竹之笠をさしかぶり二まいがさよ
り元祐いと高き所あを笠うちかぶり丹波
口あをまつ板行いてうたのうたふ
糸崎かしてうたふ手竹之手竹さかおの形笠より備
ちよあり長石田男二分程をのうち茶屋焼所
の竹之笠ふうかふ同書五下冥の古焼所より
あを笠小逸谷がさに箱ろ江戸小川房諸国
上日本流謡ふちの一文字ふ拵し逸谷笠ハ
深く八下臧を浴し或云陽谷参り作し仕中の
町を後商家ろ作ろ茶屋ろの家出ろ

八分く茶屋計となる大つ口の形ウナ石道を編
笠孫廓より作ろ手あを笠茶屋作を出ろ大ろ
たル中の町茶屋小作ろたる仕ろ大寺寺
安田町の茶屋ハ西ハ後の事と云ふ
ハ二代男貞享元年巻二流町のあを笠茶屋ろ作流
町ハ田町の旧名也ろ茶屋作て編笠孫形
小袖たる茶天和仕の画小作胸筆用五アを笠
一ツ十四文二賣ハ北五月二三十六文二賣
テ何々ノセイモ庚申参り二只一度カツキを
其マヽト云ケル元録五年アをカサノ料物ナり

編笠沿革

編笠沿革のもの昔く物語る女をかちみる時く時雨のうへゝ出る編笠をうきたる様ゝ流行まゝある笠なれる方法の仕方なる様ゝ思ふ笠を後宮又の仕様板といふ笠延宝の仕様谷笠蓑傳笠などまでを八方まもる天和貞享の仕方編笠次第に止ゝなるまげ笠になる様ゝ流あゝ笠の時分ハ陪臣菅笠なるうふうしゝ元禄の仕方大和小方に押華まる菅笠なるなりゝ時天保菅笠なるうらまもし

昔ゝ何様ゝ流まゝ西陣ゝ流れて供まる南蛮笠なるゝ一人ゝ移りし我衣小上総より出るでゝ中ゝ以ハまげ笠心伴せるゝ東る元禄ゝハ女ゝ紙張四角ゝ形ゝ行こ組ゝ以ハ張おゝ仕様ゝ武家ゝ実形迷有ゝたれハ上総廳南笠トイヘドモ其処ニテハ造ブス其近在千田米道又留ナトイフ処ニテ作ル付横歌ニセンダヨナゝハ皆笠ドコロ笠ノ針目テメガカスムトウタフハ是ナリ世事後一天和の仕方ゝ流ゝ笠元禄の仕方ゝ

節ともたやすく江戸ゆき寛文延宝の頃ハ
ゆきゝの女あら笠ばかり古き江戸絵ふき
こゝも当世女の所ゝ笠きたるが元遠ゆゑ
〳〵ニ有

薄俗笠

薄俗笠といふゝ無谷笠と命のこと俗の笠をい
ふ右日男こゝ俗の出立ばかりひゝ無谷笠と所
又河原撰園ふ無谷笠八古ゝぶ八古ゝぶこゝ俗のきたるもの
ゝ黄〳〵物語の無谷笠薄俗笠と並へいてゝ見
物〳〵〳〵吉原大枕ニ深キモノクマガヘ笠トナ

り無谷笠深〳〵ゝい〳〵ゝ命のこゝ俗ゝ着ゝ
ゝ物ゝ和ふあゝ所其頃ゝ婦女心化粧四俄ふ天
八ふゝいこゝ〳〵ゝ婦ゝ所ゝ物ゝ於編笠
ふゝ〳〵の〳〵ゝい〳〵ゝ所ゝ我衣ふ薄
俗の笠享保ゝ小蛇ゝ深〳〵ゝ俗ゝ
世説物ゝ寛延ゝ所の江戸絵ふこゝ俗ふ風流
小書ゝに其後書たれ笠ハ命浪人乞食の為
ゝ命の必ゝ和ゝの宛あきたる笠ゝ所ゝ粧廣
ゝ命のゝ〳〵小蛇ゝ上下廣狭ゝ深〳〵蓋
こたる笠〳〵宝暦の末明和の頃ゝ画ゝこゝた

り

小編笠

小編笠と申す所の紙笠の笠小さく丸き画小袖
形の小僕なりたり形衣小袖を着つき
貴僧尊者の子供共笠にしたがい
出家の一文字
出家の一文字といいて紙を中より二つ
に形ちなりて頂の一文字小なりたるを世俗
師匠と画る僧侶大路の讀経の編笠古風
きり二代男二枚さへあと笠を着つまふしの

よりと貴僧尊者の紙形なりて着たる事形なり又町家
ゆく幕送小あと笠形を定りたる紙形
むりいさなりしかや下子侍者より浪者
の幕式僧素形なる紙ひしく勿論水色の上下
と笠形ばかり修戒なる紙笠にて茶麗を
好人の寺数年を修り数宝暦八年寅十月廿七日
総分小会一月寺武分寺梅院法寺つまり本府
深編笠心市俗人へ貴分なり紙笠面長へ可
有尤市聖切子小方なり貴僧市毛山脇

法性寺笠

法性寺笠新竹齊三枚森神事の為此所七町を小〻貞信公山の大佐笠を岡梨小建〻乗〻七張迄〻法性寺の信樹寺領の山〻なる

〻〻中古〻〻民家〻〻〻〻〻〻戸小松の

〻〻の木〻〻〻〻〻〻

きくさ笠の紙にて作る紙俗つゝみ元禄八年水戸の
八幡宮の市にのつぶら笠小千筋こゝ
紙紬と有市にて作りたる漆たるもいまゝし
也笠八世にしるしおかしやうしものゝ和漢三
才圖會塗笠用薄片板紙張之漆黑色こゝたる
を指古代にて猿乘より男女共小漆笠にて用
ゆ遠方にの夜能にて女漆笠張者たり古き
ものと云る毛吹草西條四年前にかぶれ笠
とゝ云ふ所の名物の業小哥小おゝ笠七年
ゆいまけ笠ふゝ笠おかぶれサ笠のか

すはコノ内いはサ紙ハ笠にて面やくらいきよ
じてサ笠ゝ為ゝ漆笠古代ゝ面女の名
ゝ作しゝ諸艶大井カハ三井先女の名
好笠に觀世ゝ好ゝ付
中窪ゝたる女笠 紙の作り笠
松の業深の三番踊ゝ二段だ好笠ゝ
又傘踊等為ハ夏来ゝいゝ夏ハ何とゝかぶハ
ゝど二段ゝ好笠ゝ作ゝいつゝこゞ
ゝ笠小ゝ笠ゝ今のゝけゝ好ゝ中
の二段ゝたる漆笠小紅紙紙上ゝ至て張した

る女笠享保二年新ため[illegible]
右の小哥ハ玄孫中うた[illegible]
[illegible]〇紙の[illegible]一代男四賞
世女[illegible]ハ歩代のつゞら笠に白き四ツ上ハ結
ゆ[illegible]笠の上ハあき通[illegible]
むゝハ[illegible]ら笠合ハ見[illegible]
世如[illegible]つゝら細工名知[illegible]享四年かゝハ
きハ延宝四ヵ年の比[illegible]西崔栄
巷咄ハ落世つゞら笠と世[illegible]ハ天和
比[illegible]ハ[illegible]笠と女の[illegible]貞享年中

[illegible]廃まゝ後安永天明の[illegible]
政中小[illegible]

はけ笠

はけ笠一代女貞享三年[illegible]巷三[illegible]
小思[illegible]二[illegible]ハ深江の[illegible]
加賀笠と有[illegible]
[illegible]深江ハ摂津国ハ東すり延喜式附匠
寮神祭甲子管蓋一貝ト[illegible]
材従摂津国笠縫氏参来造菅翳二柵同笠縫作草
功十又賞流女用盗四[illegible]

一昔迄ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

笠の形ハ是体に形ハ又小奇無法にて[illegible]
[illegible]
上総うこゐゐゆしき毎浜茅[illegible]さ川あるにつ
づくかまりてたるきこう[illegible]の行ごさ体上総の行
にくいけく笠や又英一蝶ぶ隆達ぶやぶれ[illegible]笠右
先能のうづくもく俳[illegible]
のやうく俳重[illegible]右近江笠の古[illegible]体隆達もう
たひしきる[illegible]
[illegible]
[illegible]笠
[illegible]この[illegible]松葉[illegible]笠踊[illegible]

[illegible]あてのまけ笠
[illegible]たて助ぶ腰[illegible]
[illegible]笠[illegible]又四季都笠踊用の[illegible]
[illegible]や紅葉ぶ[illegible]や和歌笠[illegible]
かつく西ぶ笠紅葉笠[illegible]
や懐中[illegible]
続山井両ふまてゐ[illegible]笠立田養

阿弥陀笠　蝶屋

阿弥陀笠宗因子西[illegible]の笠の門[illegible]
[illegible]の続山井俳の庭

[illegible]笠[illegible]行た笠小笠の
[illegible]仰て後の方へ[illegible]
[illegible]
たふ張りたるふかあり[illegible]
に[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]八イカイ世
話尽旅ノ部ニ詞ヨセ二餐食笠ト云名目アリヨ
レモ付ニ着ヤウニヤ鍋人[illegible]
[illegible]螺扁[illegible]笠[illegible]

[illegible]笠[illegible]
[illegible]
[illegible]

草さく花の志色殊や志色殊佐中
山集佐殊び[illegible]
たる笠よいとも踊る　[illegible]
白雪の諸書よりも[illegible]
小袖宇移高笠楽笠佐殊笠佐殊笠書笠可殺恩備ん
踊のそと　古画多くも神乗おなる
田乗法師ゐるとも[illegible]　田乗ハ神乗なる　又今
京人物子[illegible]
るゐや田楽を種の笠佐殊笠たるとも古夏佐
一永長元年大田乗夏式人記云上畠裳束式兼被

仰定紅帷有風流以冠菅蓋為笠云々なとこの又
其下文に田主蔵人少納言成定勅定　火笠土志目風流多
外人とも田主舞踊る者の長に帯を佐ハ生如
ゐや日照笠の徴め小殊たる飾りの代の人も
多くゐくし又傘を用紫義物殊方傘　竹田あること
ハ義ゐ[illegible]ハいとゐのや記きあれたる
大ゐさ竹ハ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

蛇屋笠

蛇屋笠市田集京の佐ゐやこハの発心して
ちゐ殊る祇ゐ[illegible]佐ちゐ笠ゐ京ゐるゐ竹ゐ

[illegible]て[illegible]る近古笠[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]武野燭談小出[illegible]近代空也寺の法師江戸[illegible]
[illegible]勧化[illegible]
[illegible]

傘

傘和名抄史記春義云簦笠有柄世俗云大笠[illegible]
天正の頃堺の商人呂宋[illegible]
[illegible]東雅[illegible]
笠[illegible]

[illegible]の[illegible]
小簡笠[illegible]
[illegible]
[illegible]

續日本後紀天長十年九月戊寅天皇幸栗栖野遊
猟右大臣清原真人夏野在御興前勅令差遣しあ
るに老翁〳〵し落窪物語に男オホカサヽセ
テ朴ノ櫃ニオコセタリ又男君ハガテウゲニ引
ツレテタチハキトタバニ人出タマヒテ大カサ
ヲ二人サシテ云々うゝ
かれとあらたに古書より出る事 御反紙巻十うか
ヤ法さ〳〵たるに仏のいとゝ吟〳〵又法師たち
細ものゝ〳〵しきものゝ〳〵の〳〵ものゝ〳〵
ゝ〳〵散木集中西の方に笠ぬ笠と云事

形ふ馬の鬣ゝれぬ法師さゝうさを
うきのあるゝさに思ふこゝろ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

更級日記あずまの道の[illegible]

[illegible]

明衡ノ新猿楽記遊女

ヨ云フ処昼荷登任身上下之倫夜叩舷懸心往還

之客園光大師傳播磨国室の泊の遊女の

私小家命[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるいは色々故を出して彼是論ずれども有徴無和
論小丹出したるうさぎ云うさぎ[illegible]長[illegible]
作るれば本終ふあり和歌なり

風流傘

寛永頃の画に小児の傘まわりの彼方に花たる
護りと結ばせたる形[illegible]神輦に出る様
り子供ふ日傘ふ前[illegible]様ふ結ぶ者
[illegible]の[illegible]見る[illegible]前守彼[illegible]ふ
風流ふさけ[illegible]風流傘ふ文永加茂祭り古画ニ
見立太平記大森彦七ノ条ニ装束ノ唐カサ裡ナ
ナルトイヘルモ縁ニ帛ナト付タル唐カサナル
べし

長柄傘

寛矢七年院山丹春雨孫雨うき雲[illegible]
柄ふ[illegible]情古況画[illegible]
貞享元孫の姫[illegible]雨うさ日傘大人小児
ふ[illegible]柄[illegible]余ふ家[illegible]この古今諸国巡
貞享二年版 二葉幼き如[illegible]方況[illegible]
きて[illegible]傘[illegible]乳母[illegible]
[illegible]柄又[illegible]流[illegible]傘[illegible]一変

と獨吟ふ寛文元年法の師のもとに傘月のうち
後の版畫ふ亡く辻繪師古き画ふ大路ゆく
食物ふ黄色の傘をもつ宗因子句寛文六年我家
ふ笠の下天ふ下ゆ形ふ形おこしける
茶能屋ふ傘ふ今ふ幾形

紅葉傘

紅葉傘帝の用ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ
産業袋享保十七年天井がうち書記を紅葉ふ
ちり付ちさ形形青ふ俗ふ蛇の目我衣ふ
貞享こちうち地ふ地ふ地ふ地ふ地ふ地ふ地ふ

天上ふ紙細く張ふ元禄ふ地の用
ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ紅葉ふ出ふ出ふ出ふ
笠のもとちち形ふ形ふ形ふ形ふ美姫め
ふ口ぶちふ用ふふ用ふふ用ふふ用ふ青傘のもとふ
ふ了

青傘

青傘ふ最後のもの之産業袋ふの了ふ了ふ了ふ

けかさ紙張にて蒙古ハ傘たきを
の心ハ紙張ふくて表に桐油を塗たる
たくうさし又ヒカサ柄七尺大サ二尺一寸骨
数廿十本天上ノ間三ヶ条ヌリ心云々右ハ長老
カタ〻法会規式ノ時ノ日傘ニ子ハ日ヨリ多ク
さ差ル物ハ定たる事ハ有ル三ヶ条
四ヶ条ハ略ス

川氏昔咄 元文二 文化十一年 ハ蔵主 婦人夏笠の
を寛延寛暦の比迄ハ女笠ハ黄ハ大き花
柳の三度笠の形し紙用たり紙ハ薄のうす

紙編にて作り下の方に鎖の下ハ作り小ス
笠ハ浴衣 ヨクヤク 日傘ハ今ハ浴衣ハ
ふ丈ハ八年ハ婦女ハ紙ハ日傘に
布ハ又御紙ハ作る婦ハ夏ハ
笠ハ用ハ笠ハ高價ハ婦ハ夏ハ婦ハ
たハ又近ハ町屋ハ出ハ傘を用る者
京ハ明和年間京大坂ハ侍医ハ
出家ハ皆ハ傘ハ近藤江戸ハ京都ハ
ハ小ハ婦ハ小ハ巻ハ長ハ
ハ丁子巻ハ日傘ハ婦ハ花

のかんさ

壷屋傘　つわしかさ

桜陰秘事ニむう　於の町ハ北国むきの傘ハ仕
辻職人ハ行ハ右ハ中ハ弥北ハ冬中に傘ハ
屋しいて　あ弥世ハ　ハ代ハ　ハ　ハ　ハ
屋の繁ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ハれ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
んば　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

白笠袋

培風ニ文亀十二年評朝倉孝景持白傘袋ハ敷毛

氈鞍覆将軍家令也今諸大夫ハ　ハ無官の社
家ハ白傘袋ハ　ハ陪臣ハ毛氈の鞍覆ハ敷秋
草に云京邸将軍の代ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ハ　ハ　ハ　

[illegible]田安[illegible]神田[illegible]石[illegible]門[illegible]
[illegible]
用[illegible]可仕[illegible]
[illegible]
[illegible]楊万里カ舟過安仁詩一葉漁船両小童
叔篙停棹坐船中怪生無雨都張傘不是遮頭是便
風カニ笠ヲ帆ニシテモドル三谷舟ナドイヘル
叢句ノ意ニ似タリ

嬉遊笑覽巻之八目録

服飾

刀脇指　小刀　さしゝ
　　腰刀
赤刀　北太刀　大小
　　長柄　大振袖
同貫
ダンビラ
七子
クハシ
きびちゃ
かゝ孫う川平　ちゃバ阪

一ノオ
二ノウ
九ノウ
仝
十ノオ
十ノウ
仝
十一ノオ

[illegible]　　十四ノオ
巾着　燧袋　武糸柔ものノ部ホ入ル　十五ノオ
印籠　十六ノオ
荷包　十七ノウ
帯[illegible]　勘定袋　煙草袋　十八ノウ
前巾着　廿ノウ
浮世巾着　廿二ノオ
暖簾の耳　廿二ノウ
花袋　廿四ノウ
歌袋　廿五ノウ

[illegible]袋　廿六ノオ
把ふくさ　仝
鼠草の根付　廿七ノウ
早道　廿九ノウ
鼻紙　三十ノオ
帯入　廿三ノオ
花瓶留　廿五ノオ
煙草の[illegible]　廿七ノオ
[illegible]　四十ノウ
扇　四十一ノウ

かはり　未度　中絵
　　昔の為　はり　四十四ノオ
檜扇　四十六ノウ
かなえ　四十七ノウ
一束一本　四十九ノオ
丸ゆり扇　五十ノオ
小彩紙　反禅扇　五十ノウ
鳥扇　五十一ノウ
扇懸　五十三ノオ
団扇　寄良うちは　伊法う和ち　判し　物絵　五十三ノウ
流行ひろ　五十五ノオ

揚板　木の　五十五ノウ
張屋　赤面　平　五十七ノウ
垂赤面　丸　赤面　五十九ノウ
揚板さし　六十一ノオ
揚板に垂ひと云事　六十一ノウ
孫彼　六十二ノウ
沈　六十四ノオ

嬉遊笑覽巻之八　　喜多村信節撰

服飾

刀脇指　小刀（チヒサ）　さしぬき

後刀　小刀（チヒサ）

古へは刀を帯するに、大小ともに、腰に帯せり。

又後刀又は、さしぬきとも、小刀とも、脇刀の異名

なり。今小刀は、さしぬきと、ばかりいへり。

さて、刀の製鞘は、蒔絵、

小刻は、鞘巻、まるたち、なり。九寸一尺は、

限りなく、柄は、巻革、鍔は、入れ、鞘、反りは、方よ

り、切小刀、ぐらい、まで、柄と、鞘と、市中、通りたる

銀座第三御書籍部

もの大きさ弘前藩人の指さしたる如く古事談四出羽守舟頼襲り好にて処三々ケノ直垂袴二九寸計ナル背カノツカ二ク大子イトマキタル脇ツボ二廿三貞順ウ故實集ヨカの柄巻たる長さ男後ハ烏帽子上下の時ハ長刀又巻たる長さを時宜ヨリ長く加茂氏の雜問巻考ハ柄巻ハ軍用の時ハ云ハ強ク古ハ軍の時ハ右カ柄をまかぶ京都将軍ハ来さ長刀柄巻の太カ長く柄巻ク巻ハ長刀巻巻巻の出来ル巻ハ新ハ流の為ハ

したるものなり長ク○腰ニ長刀ハ帖西三位記

家郷ハ長刀ハ長ク腰ニ巻たるハ長刀ハ長ク

ハ巻如ク腰ニ巻ハ刺刀後撰集十九雜ハ

長刀之形ハ長ク反ウ巻たるハ大の刺あるハ西ハ

ウ長刀の長ク長ク曽我物語五けそひ仮の

女ハ長ク巻て巻ク力長ク長ク長ク

ヤハの長ク逆ク梶原ウけ長ク司たる巻

ハ長ク長ク長ク長ク長ク長ク長ク長ク

さ長ク長ク○又長ク長ク長ク長ク

ク長ク長ク長ク長ク長ク長ク長ク

[illegible]

[illegible]

[illegible]

叡尭ハ其叡ヨリ前後北叡螺鈿北剣前後螺鈿
剣三ツの形有リ前後北剣ハ年七出形の時年
ハ入歩後ハ人ヨ命形有リ前後螺鈿北剣孔
平鞘ニテ中茎ヨリ草鞘剣ヨリ稍長毛板形剣ニ
ヨリ中長真叡ハ反用貴ヲ長ラ出形ハ用貴ヨ
毛板形ヲ形ニ螺ハ出ル物ヨリ稍長一尺
四寸ハ方ニ又海府剣ヨリ中長ニ貞順故実
集ハ形刀孔鍔刀中長ニ形ヲ形刀ヲ
形ハ紙ヨリ薄ハ長深ヨリ長螺ハ命ハ形
尭年武ハ長形ヲ有命螺ハ胴孔北同若北剣の

系ハ胴ハ根の厨胴ヲ長ハ形ヲ
ハ刀ヨリ長形ヲ毛形ヲ昔ハ腰刀ガ
ヲ孔刀ヨリ刀ハ後の前ハ形ヲ形ヲ古画ヨ
ハ代ヲ刀ヲ刀ヲ刀ハ長茎ヲ長ム引股
ヨリ世鞭ハ形ハ長ヲ裝造ム刀ヲ長ハ便利
ヲ有後世軍中ハヲ刀孔廃今の刀大
ハヲ形ヲ造ハ平日ヨ大孔指ニ形長形
今の根ヲ昔の根ヲ刀ヲ刀ヲ刀
ヨ三尺ヲ孔ヲの形刀ヨ宝町ヨ孔ハ
已ニ数多見ヲ孔ヲ今の刀

[illegible]
朱鞘の[illegible]二丁一寸のうちかゝる同[illegible]
ふ大しら[illegible]
れ孫なたるふ[illegible]刀[illegible]
つきし[illegible]
[illegible]ト傳百首ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふ[illegible]和名抄四声字苑[illegible]似歛而一双
曰刀[illegible]小[illegible]大刀和名太知小刀加太奈[illegible]両双曰
劍今按僧家所持是也と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

其始ハ鹿島ノ住人ニ飯篠山城守家直兵法ノ術
ヲツタヘシヨリコノカタ世上ニ廣マリヌ此人
中古ノ開山ナリサテマタ長柄ノ始ル子細ハ明
神老翁ニ現レ長柄ノ盃アルヿヲ林崎カニ及勝
吉ト云人ニツタヘタマフ勝吉長柄刀ヲサシハ
シメ田宮平兵衛成政ト云者ニコレヲ傳フ成政
コレヲ帯諸國ヲ兵法修行シ其神妙秘術ヲツタ
ヘシヨリコノカタ長柄カヲ皆人サシタマヘリ
○むかし町人私ナキ小ナルヿ有リ見
少年ニ令ニ合ヒ[illegible]町人ハ仙台及大ノ[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]又可[illegible]記 西保元年記 巻三六の
所の町人[illegible]侍成学[illegible]
三尺余りの大ナル[illegible]の大勝[illegible]
[illegible]ら[illegible]志十[illegible]小[illegible]宮町り記十六[illegible]
以の時百姓[illegible]停止の[illegible]有[illegible]も文
[illegible]止[illegible]天和中[illegible]
[illegible]代男
七宮文[illegible]の[illegible]町人[illegible]ら[illegible]七[illegible]の
大[illegible]
口[illegible]
古画[illegible]
[illegible]柄[illegible]今の四ら[illegible]
[illegible]ら[illegible]七[illegible]

と小鍔取用共形うつし出すべし
此もの拵対のもの拵形うつし

金鍔　立敷柄

金鍔のもの作り事寛永中世第よりの多くこれ
色色論にまかせ大小の金鍔つけ事
ハさまざま茶師宗和流行の紙をやつし重
鍔大小おちつく浮世あり後はたくき鍔の中さき
さまざま金鍔をもつくり其山ちりいろ又
後立敷柄と好みる是行又角鍔はおのこと
りや鍔鍛元禄十年暦小京を拵職ハもの絵小
ゆく鍔小後より高みる共角　鹿葉袋享保十七年柄

ノすンハ当代ニゴカウ立敷二柄ハ三ヒモ大
キク茶アケ仏流伊達二仕又ハ行丈長前白角
ちりくちりくちりく

流苦[illegible]の数を用ひ[illegible]
[illegible]物うの制[illegible]
[illegible]
元英[illegible]
[illegible]
小刀柄の裏[illegible]
[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
[illegible]

近年[illegible]
[illegible]
平[illegible]近年享保中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
脫俗ト申事心得有ヘク候歟老拙常ニ子弟ホニ
申教候一条[illegible]衣[illegible]
始メ常ニ申言バニテモ世上ニハヤリルトヤ事

ヲ好ミトカガ丈ガ取モアヘズ俗人ト申モノニハ
俗トハコナタノ訓ニナハヒナドヤ称サレバ平
生ノ物ズキヲイカニモ当世ノ俗ヲマヌカレハ
トヤテモ異形ノナニニテハ猶モ不可然候間何モ
ク出ヘラヌ処ナドトクト心得ハヘトヤ事ニハ
紫衣授ノコトニラヘ五六十年イツモ同ジナニハ
料理献立何モソノ心得ニテ世ヲワタリ来リハ
風流風雅ハ別ニ又一段意味アルベクハ事ニヤ
彼小夫老婆迄ハ是ハ宝暦以後俗士ノ差たるハ
あるうち彼ハ此味ヲ代流行ルヨリ外ハ此ニた

ルカヤウニ細ニ切羽詰ル焼ケ小ク
謂ルトノ此味ハ論ルニ三条ノ都色抜キ花
奏小奏ヲ用ヒ何ヲ小奏ヲ用ヒ只ヲノ張
弾ヲ用ヒ今ハ張人ハ何ハいうル
ルカヤウニ今ハ俗人ノ云浮ハ是ハ抜ハ何ト
ルカ抜キ抜ヲ小対ノ大小ヲ抜ハ何ト
彼小敬ヲ小此味ハ是ハ用ハ三ハ歩ハ如何ト
大悪発ハ字抜抜ハ蒲山ヲ抜ハ
ルヤウニ抜ハ滋治ノ少年ハ延宝元和ヲハ
ヲ大抜ルヲ大小ヲ貞享元禄ハ細ニ

[illegible]

月貫

古事談ニ肥前守景家トイフモノ水干装束ノヨキヲ云必赤ツカノカノマフタキニ貝摺タル差テリ家中ニハ居タリケルヲ〻貝ヲ月貫ニシタルナルベシ

ダンビラ

神南合戦条太平記サニ山名カ部ホ福間三郎七尺三寸ノ太カタビラ廣ニ作リタルヲツバモト三尺ハカリヨイテ蛤歯ニカキ合セ云〻

七子

カ鮫ノ金モノニナヽコトイフ紋アリ帛ニモナナコトイヘルアリ今七子ト書リ装劍奇賞ニ金具ニ細点ヲツクルヨリ出テ帛ノ織目モカナ具ノ細点ニ似タレバヤガテナラヒヨベルナリ其紋ノ魚脂ニ似タルヲモテ名ケタルナルベシ魚ヲ古語ニナトイヘバ魚子ノ義ニテノヲナトイフハ音便ニテ古言ニソノ例少ナカラズトイヘリ此説イカヽアルベキ糸ニハ一コ二コナドイフアレバ帛ノ織カタヨリ出シ名ニハアラヌ

欽文獅子ニ牡丹ノカナ物ハ太平記大塔宮入洛
ノ処ニ緋威ノ鎧ノ裾金物牡丹ノ陰ニ獅子ノ戯
タルヲ云々ナドアリ獅子ハ獸王ボタンハ花王
ナレバトリ合セタルモヤウニテ漢物ナルヘシ

クハシ

今ホヅカ笄ノ裏ニソミクハミトイフ古ク柄サ
ヤ皆金ニテ哺ミタルナド云ハ今イフ胴ガ子ナ
ル心ヒ

金きんもの

伊達安房人の問ふ答て云大小刀拵て打合を
く誓約ときんもの古書ハ所見多信
長秀吉ハ武士の大小帯る仕様
古代この事ハ又漢土
る事ハ可然ハ古刀拵打合る
るれハ食打ち書ハ遠ハ如
此大小刀拵て打合る
ると雖ハ此説聽ハ
なり見ハ佛と雖ハ
ハ拵打合事
ちゞ法

四本今昔物語十六ハ
有度ハ打頂て泣ぐ

きあはせ共所へ[illegible]あつまり二月廿後
たる事仏法の[illegible]法を世[illegible]
有難[illegible]うけ[illegible]
[illegible]たる事の中[illegible]
文殊書[illegible]今年[illegible]
[illegible]
[illegible]侍の[illegible]
山[illegible]師の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

少[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ル中陽軍鑑ニ内義隆記と長坂治部少輔の論の次第
人物ハ如何なる事ぞの論を作り云治部少
輔ハ豆おのもう[illegible]に来にしよりの論
ハつゝと百性あてしめのゆ孤口撰き沙弥之
鷹巣波集ニいとかゝる[illegible]せ
ゝ[illegible]たるうゑのだちやあるん大幣ふたや紙
[illegible]まいとの如うてかゝ[illegible]
[illegible]ハの葉表紙[illegible]
知ゞ孤[illegible]おゝのゝやかゝ[illegible]
かの八虹点ち百[illegible]の会[illegible]孫の將

[illegible]
[illegible]大小の刀[illegible]
[illegible]や戯場流[illegible]
[illegible]の巧意小出[illegible]
[illegible]のおやまう流のき乙[illegible]
[illegible]たゝ[illegible]き乙ち[illegible]
[illegible]きゝ八夏山雑談四巻[illegible]
[illegible]つゝ[illegible]る事[illegible]
[illegible]どの論義の時論義師[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

こいて佛教は無言戒小乗つゝ事紙文(キヤウモン)なれるゝ[illegible]
とゝて源氏物語[illegible]橋いくさ[illegible]
にまゐぬるむすめ[illegible]たのゝ
花ゐ小童ゐ張ゝ言葉ゐ[illegible]記
云ゝとゝ[illegible]何ゝ[illegible]
嗚ゝ[illegible]
ちゞまゝ樓遑ゝ[illegible]
ひたゐ面ゝ又此[illegible]河海の説ゝ日本記
進退の刑ゐ[illegible]

此説ゐまにゝ[illegible]小立ゐ[illegible]
[illegible]又樓ゐ楽歌樓人の刑
[illegible]ゐ舟ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]但[illegible]昔[illegible]
[illegible]
自万留の[illegible]ゐ草[illegible]
んど[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
漢土[illegible]書[illegible]春秋左傳

等よりかきくどき後世欲つけて事弘止る
ゆ還願といふ秋坪新語巻八ある者博を好むを
の妻憤みて病死勧めもれしかきの後妻情迫
りて云ふ様なれば我鎧(こたくり)て死なん
ものなれば生大怒亦矢甘亦如能死者必賽
戴還願と行妻果て死たる後を霊行ハ
生くる夫を苦しめ妻嗤甘子前願未還文軽発
願無信心人空言何憑とあり還願を今いふ然は
ときしたしかん人の恥を生ずるの振舞
ゆ還願といふ雅言なハ

敬たてまつる敬はるゆ敬たてまつる

巾着　燧袋

巾着ハ燧袋の名残なり燧袋ハ古事記日本武尊
の山ゆにかゝり後世佩カ如き古画と
るに多くこの漢土宋ノ代武官五品以上の
佩カ火打袋ゆ帯るゆ行古へ旅行ゆ必ゆ
ものゝ後撰拾遺等の集小この又古平記ゆ青砥
左衛つこれゆ弘ゆ敬ハ行ハ今の巾着
とゆるゆ行後の中ゆ敬ハ行ゆ燧袋小の敬ハ行ハ
ゆ巾着ゆ漢土ゆ荷包ゆ行ハ爰小

て行縢を用ゐて荷葉を物色し始なる（名義考紫荷嚢條晋輿服志文武皆有嚢綴八座尚書則紫荷紫謂之生紫為裕嚢綴服外加於左肩乃負荷之荷非荷葉也今謂嚢曰荷色本此）とも云ふ古画に小袖の裳を結び紙袋の如き嚢を背負ひ三角なる結袋は三角小袖ふとものゝ三角小袖の如きものを云ふ也但し紙袋を指すなどよりは大なるものなり三角の紙袋なるべし古嚢ふ三角なる為にふくらかなる太平記卅三柄鞘ニナ金ニテ打鋪ミタル刀二虎ノ皮ノ遂嚢ヲ卅ゲ云々

印籠

印籠は下学集に印籠同と林逸節用に印籠印利印用とも用書に薬籠に出て薬箱なるに四方なる重匣を印籠印利印用と物とは別なり仕に別国記に薬籠といつも唐物なる故に実に北二色和邦に玉又稜に佩る印籠を名のみ也用る薬の多は実に薬籠なり安南云北物は伝長寿吉なる内に薬中に用る仁礼の上節に作る為に物なる故

るべきものとなるべし尺素往来に也茶等の
多様云て当世人々火燈袋に唐面に小茶筅に中
小必要なれば不得野有恥辱歟又結袋を
連歌する者は茶食器と云て印の若し外古
き茶器は東山殿時代の茶器なりとの有
東山殿時代なれば公方様なさるの心安南
又云室町殿の御座中へ力に少手袋なれば茶
事なれば老人病者なれば茶湯のうるはしきを
花押に宗五記ふるへ作り分は出来へ接ふさ
事物なるべし○筒の蓋はやらふふ

たと云ふ茶器の蓋は小形なるの者にて
器なるべし如此の茶器菓子に心なし
たる器なるべしこれ茶器なれば又茶器なる
て物なるべし茶器なれば茶器なる
遵生八牋有小圓香撞三層四層者有掛吊スル腰
子香撞五格三格者ようの掛吊腰子香撞といへ
る物の印籠に成ふ裏ふ廉ふ御
物を奇異雑談にある張僧繇ふ堂の内ふ掛て
天井に女の像をかけたるを見るに
茶器なる火所帽子なる物なり天井

小麥にて云ふ小麥の粉を糊袋に
詰て入茶筌を中に置て茶を点ず

荷包

きゝうやく漢土より荷包といひ周禮に花義考
小番の輿服志に文武皆有囊中囊銀服外加
紫丘肩乃負荷之荷非荷藻也今謂囊曰荷包本此
といひまた荷葉に用ひ知恥包むとなり
竹篠に用ひたる云ふ酔善捉ナ一面清顛和尚と
毛大尉新等を食ふ呼庵大又反了一椀来用
荷葉包好身清顛ふ照世杯曲田将絶大的荷葉

来包鹽云ふ大きのうち大きに用ひて
竹に永代蔵に越前国敦賀と年貢米といふ
ものの小袋毎日賣ある味噌いつもなる小
桶儀と拵へ代賃限りなく時と共に出
してセ月中の形に成て捨て遠国に捨ひ
無之一年中の小賣なり此包この刑部屋上
小ゑ屋に包まる国に行といふ
用ひる所知る江戸小麥に用ひさ
れどもこの所ものや高麗菓子味噌のうへと長
へ味噌に拵へ云伝

帯ニ結ブ　勘清隨筆

月覚草ハ黄顔傾のきゝ　小菊絞染ノ布
篭ヲ上げかゝのやまゝの結ヒ　色音論ヲ
ゆゝ紀絞ゆいゝゝ　紀糸の明ゝ所を
たれまきゝ　ゝ　さゝごゝ　ものゝ　ゝ
ゝきゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　飯布篭小寫巾箱ハ張箱ハ　ゝ
育ゝゝ　ゝ結ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ螺殼の御箱ゝ　又月出山の腰月ゝ雲
の帯ニ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ハ二箱ハ一代男　七宮文中のゝ　結ゝゝ
茨布の糸　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ふたつゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝハの玉ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
○トニホウ玉東雅ニ鎖紐ヲトニボウナドイヒ
近俗ニハボタンナトイフトニボウトハ其形ヲ
カタトリイヒシナリホタンハ西洋佛郎機ノ
國ノ方言ノ轉シタルヒトアレバ一種ニ限ラズ

トミユ産業録ニトシボ玉ハ地ルリ或ハ白キニ
赤キ花ノチラシ紋アリ焼物カ如クミエテ至極
ウツクシソノムカシ唐ヨリ始テワタリシ時世
ニ珎ラシク奔走セシ中ゴロ大坂ニ名人有テ作
リ出セシニ唐物ニチガハズ其上唐ヨリ年々ニ
多ク渡リテ人ノ用ヒテナク今ハ以前ノ百カ一
ツノ價モナキヨウニ成ヌシカシ最初ニワタリ
シハ人ヨク見ワケテ價モ以前ニカハルナシ
本艸啓蒙云船来ニトシボ玉トハ黄白色ニ
メ正中ニ猫睛ノ如キ点アリ是レ集解ノ猫睛石

シ又淡青色ノ硝子ニテ櫻花ナド画キタルアリ
俗ニクスリ玉トハ云是ヲホトンボ玉トハ云ハ非ナ
リコレハ蛮人ノ衣服ノ鈕釦シトハ云リ此説非ナ
リ猫睛ハモトトンボ玉トハ云ハズ産業録ニ鳳
天ハ唐物ノ地アメ色ニテ両方ニ紅ノマロキ照
アリミヅナルモノシトテトンボ玉トハ別ニ出
セリ物理小識ニモ猫睛ノナヲ云テ無活光ヲ睛
蜆頭ト云トアル如クコハニモ唯ルリ色ノ玉ノ
初メワタリタルヲソノ形ヲ取テトンボト云シ
ナリサクラ玉ヲハ大ヨリニ其タグヒト思ヘリ

三十ルべシ其山ノ大磯ヲ物の言ハ紙ハ多
くれとこゝろ〻記し〻ハ紙ヲ中に平蔵忠梨子
地と云地の迷ひ〻こゝ所用却又ハ又ハ
しの初公ハ紙ハ游女ハ〻〻〻〻〻〻
思ふ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
ハ好むとこの故ハ〻〻〻〻〻〻〻〻
紙の用ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
備ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
口撮合山撮合山ハ荷色上壓ハ也〻〻〻

箕山

箕山大磯ハ中箱ハ九鼎形ハ游女ハ紙ハ
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

ラ弘和尊ノ○雨森東カタハレ艸ムスコベヤト
テ此國ニテモテハヤセル毛モノヽ皮ハ其國ノ
詞ニハウスンヨヲルヘアントイヘルヲ此國ニ
テイツトナク変ジテムスコベヤトナレリ○過
菓手簡備前池田新太郎殿家老池田大学申着ニ
大サンコジエヲ付タルヲ見ラレ氣ニ入ラス一
両日過テ新太郎殿申着ヲ提ラレ大学ヲ呼手ツ
カラ申着ヲ賜リ其緒メハ手前細工ニ候間左様
心得候ヘト申サル大学頂戴シテ退テ見ルニ緒ジ
メハムクロニジヲ焼火ハシナトニテ穴ヲアケ

タルシ丈ヨリ大学右ノサンゴジエサクルナ
ラス国中ノ士モ印ロウ申着ノ物ズキスキト止
申ヨシ面白キ儀ニ候

浮世申着

浮世申着ハ常紙吐ニ禿モ毛歩ノ四五十ツヽハ
浮世申着ニ絶サズアリ思フニ異ナル申着ニモ
非ザルヘシ禿ナドカ持エエニウキ世ノ名アル
ニヤウキ世袋ハ結ル三角小袖ヽ後ヲ上
の角小糸ヲ結ル為シ何も面白ク小児の紙
為たり大盃求女ハ流よむうしハ游女とたり

ゑ浜海老ニてもなく　ひとり行く頃城宅ふかく
柳ハ二本植ゑ横ゑ張ハ公の書ハ小ハ節ハ
遊女の名ハ書て下ゑうきゑ袋と　ハ相ハ角ゑ
外細工ゑ　て年ゑ心　ゑ海老ゑ　ゑうきゑ袋と　ハ
ゑ　ハ　たゑ　ゑ　ハ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

暖簾の再

ゑ遊女屋の暖簾のゑハ　ハ　ハ　

小似ル三角ナル袋状ノ物ニシテ誰神ノ一種ニシテ掛香ノ袋ナリ麝蘭袋帰ヨレシ又
うきよ中箱ハ「栗栖の神ふる」而ハ女工の
をむら祈るみ三角の袋空虚ハ帰ハ
如反物ハのもしを用ひきあり
俗ハ又ふくり
うき世ハ「ふるき」舞ハ
形云ハ舞ハうき世人ハ
ハ年たるかハ
寛永十三年うき世ハ迷ハ悪ハ世ハ
築波集一云ハハ
こたつのもとハ

又稚隆比率四田町ハ紀ハ男あり形如ハ用
ハ思ハ代義一雖ハ小色ハ
の袋ハ
永代義一雖ハ小色ハ
浮世小敢ハ山百深ハ又ハ浮世山
撤ハいハ菓ハ用ハ
世ハ袋ハハ
ハの心ハ浮世中箱ハ
小先小ハ四ハ
ハ浮世中箱小御ハ
「ハ」三角ノ袋ヲウキヨ袋トイフハ暖簾ノ耳ニ
似タル故ニハアラズモト誰神ノ一種ニテ掛香
ノ袋ハ今ハ麝蘭袋ニハ用栗鳴ノ神ニ手向ル

ハ女工ノ進マンヿヲ祈ル心中虚ニテハ吊サレ
又故綿ヲ入モトヨリ所用ナキ物ニハ非ス掛香
ナトハ婿メケルモノナレバカワハヤリ討ニテ
ウキ世袋トハ云ヒナリ

花袋

花袋ト云ハ今女児ノ為ノ花形ノ袋ニ花形
小紙ヲ貼ル 指枝筆ト云フ 寛永年間
帳糸掛ヨリ掛ル 備ニ云ク 宗長 ものつば
ヒヒウキ世袋ト云 重政 紙ヲ切テ今ノ花
ふくろ良徳 重政 白ウキ世袋ノ三角形ノ

花袋ノ蓋ヨリ小ヒテ花ヲ結ヒ付ル只生結ヒ
ハ見ハ小形ノ袋ヲ白紙ヲ以テ作リ花袋ヲ
ヒヒ袋ヲ又帳子ニ紙ニ作リ逆ヒ結ヒ
ヒ袋 云々 ○誰袖ト養狂哥集ニ誰袖ノツナ
ヲクハヘテ引トコロヲカイタル画ニカホリス
ルニホヒモフカヒ誰袖トヒケドモ君ハ犬ノツ
ラニク又同集ニ若キ香具ヤ参リ色々ノ香具ヲ
出シテル伽羅タガ袖花ノ露匂ヒ袋 云々アリコ
レハ紐ヲ付テ二ツ連子タタルヿ今ノ匂袋ト同シ
古キ雛形ノ画ニ多ク出花袋モマタ香嚢ナリ

預袋

預袋といふものいと通き所に出しものなれ
ども袋の上に墨にて預書いたるゆゑ唯
の袋なれども吏事扱ひ丈なる集に出てゆゑ一村
の人民ともに初め文字後に張紙を張りて○
奇袋なれども世に稀なる古い櫃紙にて作りし袋なれ
ば世間反故にて入ものの製古へ如
何有りし事詳吏事扱佳永仁元年建忍
小野や性の袋なれば古首座東為張いりて
や知らいまそ

手みち袋

りうち袋空穂陸奥宮城ふくしまの人民の新
麦牙といふて稲ふるの稲ふるの汁をもて出
してつくるなり新麦さらしの名有りしや仙台
くだる之ふるうちみち袋と云ふ所の名
さくち袋といひ少し小さい祝ひ物なり
くだ小物なり此系下は仙台の袋の
名ふりて次てふ物
把ふくさ
把ふくさは又初めりぶくさ
一代女四武家

小事ムの女体ノ如ク和物ふくさ[illegible]こ板ノ
袱紗出シ[illegible]拵立元集舌打[illegible]て何ら[illegible]む亟用し
[illegible]ふくさ又ハ張袋和巾ト云ハ
茶ノ[illegible]有ハ出川小むつ[illegible]ら紀袱ぢ和巾ハ一
むら[illegible]の胴巻ト云ハ[illegible]
[illegible]出るハ古ハ鷹ノ餌袋ニモ種々ノ物入テ
持シ如ク金銀ナドモ今ノ財布ナドノ如ク其ノ
ミニ用ユシモノモナシト見エタリ沙石集巻六
アル僧本尊ヲ造立セントテ金ヲ五十両守ノ袋
ニ入テ首ニカケテ上洛シケルさいふと上刀甲

刈ニテ陣吉トイフハ腰ニ帯ル長キ袋ナリ巾着
ヲ豊刈ニテフウツウト云長サキニテダラト云
トゾ金厚板類ニフウツウト云モノ巾着ナトニ
用ユル故フウツウ織カタラハ垂ルヽモノナレ
バ名付ナルヘシ昔ハ物モラヒナド長キ袋ヲ腰
ニ帯地ニヒキテアリキシ繪本ナドニ多クミユ
鷹ノ餌ヲ入ル袋ヲ打剣ト云ソレニ種々ノ物ヲ
モ入ルヽニヨリテ遂ニ打剣ト云袋出来シ雑
兵物語鉄炮足軽小頭ノ討ニガイニ働テ息ガ切
レベイナラバ打剣ノ底ニ入テ置タ樫于ヲトシ

出シテチヨツト見ロ必ナメモシナイモンダゾ
ナメテモ喉カカハクノ物ダ

瓢箪の根角

云フタ乙の根角ハ箸ハ山椒と胡椒と同言
の系ハ武家ハ西ハ山賀紙ハ紙ハ
きフタ乙なに入ル山椒を入れ
ハ自毛ハ意ハ浮世物語ニ有る者
ふつ者ハ百ハ瓢箪ハ胡麻の山椒を
出ハ中為ハ為ハ乙ハ
ハの中ハ角ハ乙ハ

一ハ之の間の根ハ
ちう紀ハのをハ
のふハ同ハ紀ハ
ハ根ハ巻三味線ハ乙の横
中為ハ令ハ時代の業
ハ時代ハ紀ハ
印竜の紀ハ
あまハの二ハ玉ハ六根角ハ
ハにおハ東鶏子ニ横南令ハ村ハ
山厨子ハ一ハ供所の料の魚調進の取ハ
時ハ元孫寛永の代ハ

[illegible]帯蔓らざる反閣の
根と号て人小益あるものゝ常佩ゝて伝記
氏冊級の結しめ小財ゝ毛巻を除分の結く
波村小壺芦[illegible]ゝ[illegible]寄の根といふ為だよ知
人ゝ中ゝ[illegible]瓢[illegible]帯ゝと古くゝ[illegible]ゝ[illegible]
結書ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
巻るのゝ[illegible]反[illegible]云さゝ百[illegible]
中小出来ゝ[illegible]閣の根ゝ[illegible]ゝ
用条ゝ[illegible]ゝ二説ゝ[illegible]ゝ
ふ所小巣[illegible]ゝ[illegible]根ゝ[illegible]

[illegible]ゝ根[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ例の謎[illegible]漢
土ゝ[illegible]ゝ事あり西廂記斉壇闘會ゝ條ゝ銘
子裡各帰家葫蘆提閙到曉ゝ[illegible]注ゝ云銘子裡
猶云昏黒也葫蘆提猶不明也俱方言蓋謂天時人
事混過了一晩之意ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ葫
芦の根前後ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ千
ゝ云ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
集ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ある人今以振舞ハナ紙袋行ハル、ニ及ヒテ印籠ナドノ提モノヤウヤウ廢ル新長者教貞享五年卷四越前敦賀繁昌ノ事ヲ云テ田舞切モ集レハ今時ノ人カシコク印籠ハハジメカラサケス鼻紙袋モ内懷ニ入レバ手ノトヾク事ニ非ス

早道

早道續五元集下出ル人やきさやの錢形きせに道芝居はたまこの盆歌道色遊ちかのさしけりかゆ合まちと奉と逸道あるそ浮ふぼとそ落けるかこれまものの袋ゆふ思ふ小音ハ苦巾箱ハ早ミちちる小や茶橋集景法ゝ道の事記を美よ志き　キ角　苦巾箱小小判角形曲水道の事記とハ小ちそ山苦巾箱を帰年反孔ちそ紙おふ年月ハ別小一種の物ちふ」

鼻紙

ちふ紙ハ古へたゝう紙といて抗覆紙ちちの國うこのたゝう紙の名ちやうの形ちふ光ち二重名名ちこふかひうつちたる　ちふ　赤ちふハ紅ちふ　のかけ　こ抜小ゆ抜ちふつ四世ちる　ちふ　園大暦ち徳大寺前内

大臣公賢大臣小物同給候の中帖紙ハ不
及沙汰ニ也雖作候ハ只朝夕用ル如ヤウニ
ハ箱ニもちとちゃくしたる物ヤ候つき候ハ
無無候ハヽ可反出ハ百ヒロ也ハ切候ハ公卿
ニ後ハ薄紙帖紙候ハヽ事ハ不及沒
ハ紙ハヽ夏の事候ハヽ むし紙の帖紙古物ハ指
て候貞順條々聞書ハ多紙候ハ事紙数三十枚
候ハヽ物ハヽ候ハヽ候ハヽ 俗ハ大略候
事紙用候間書下 女房流のもの紙ハヽ
ハ男のハヽ物ハヽ候ハヽ 神の紙ハヽ物ハ必

ハヽ紙ハ是ハ候原ハヽ物のハヽ物ハ
ハヽれハヽ秋草ハ云ハ小ハヽ小菜
小板ハヽの如ハ小板ハヽ物ハヽ紙ハ
小引合ハ物系ハヽ物ハヽ 月詠の詠草物ハ料紙
ハ物物ハ河ハ是古ハ物ハ紙ハ物ハ
ハ折ハヽ用事ハ近世ハ家流未草の時ハ
ハ紙ハ物物ハ物ハ 此ハヽ紙ハ原
きたハヽに切ハヽ物ハヽ物ハ物ハ
ハたハヽハヽハヽ物ハ和の裏紙物ハ
ハて物中ハヽ也 此ハ物ハ紙ハ古書ハ

へ近世の製紙も亦おほいなる変化ありたり紙の源氏物語に
一番織人歌合に紙漉の事あり「紙こうぢ切切
もくの光を作り秋の月きよみやき色よ海
作りし人の手ぶり」の画
作りし紙を色々に染て
おめりて色紙ハこれなりやき色上ハ敷ら
色紙ハこれなりやき色上ハ敷ら
假粧の具麻古ハ何ヤ下云ヲ何トノトイヘリ
ト丿張トノ、如キ
ノ假字ナルベシ猪羅ト
コレ後世ノ小間物屋心○江戸五
字張忍藩史伝に
人なりしこと
右紙用云々是ハ
と云ふ
和と云ふ
紙紙
こきくれなゐ
東ハ張ト
小生紙を
小男女共ハ小
展の大の紙用

葉ノ部頂ノ中板ヲ一ツ分ノ幅ニ切リ
ヲ長ク切リテ小皇ノ口ノ形ニ紙ノ結ビ中ヘ
折ノ方ヲ付ケ二ツニ折テ又ヲ半ニ折リ板折
ニ少ク用ヒテ類柑子哀レサル物ヲ云客ノ中
板ツカヒヘラシタルモカヽレズ大カヽミニ
トイヘルナルヘシ色三絲ノ紙ハ延ベ女ノ半ヘ
ハクノ方ノ角揚板ヲ板ニ書ハ色ハ本
厚刻皇紙ノ小サキ方ヲ散物ノ表
ハノ小サセルヲ云ヒ作リ方ノ角ノ小ハ
キヲ二ツ折リ四ツ折ニ延ベ五ツ折ニ思ハ

横ヲ二ツ小形ニ又是ニ三ツ折ニ
角ヲ切ルニ古式ハ小カキ但シ小キノ方
ノ形ニ角ヲ少ク延ベ
紙ノ
皇紙袋ハ色ニ白ハ延ベ代延宝ノ頃
百年盛リ流レ下ケ物ヲ廃キ代根本ノ事ヲ
形ヲ角ノ上ツヲ用ヒ結ヲ下ノ半ハ
小反ノ形重寶ト形ヲ陽流ヲ中ノ乙ト形
ヲ中ヲ小ヲ葉ヲ方ヲ角ヲ角ヲ横ヲ
長ク板ノ方ヲ中ハ長ク角ノ具ヲ見ル

り引かけく色物ゝ志なる品物ゝこしらせたる
留ゝ又ゝかゝだふゝ紙二つゝふゝけゝおゝふ
ゝゝ色ゝゝ雑多庶志ゝ草或ゝ猫ゝ
花震を縫ゝの内ゝ地散ゝ業ゝ刷ゝ毛筆
ゝの物ゝ入ゝ紙と合ゝ大形紙ゝ
紙形袋の内ゝ入ゝ有多の性中ゝの
ゝゝたゝゝ貞享元禄頃の画ゝ
ゝゝ一ゝゝ帳ゝ内ゝ梯ゝ
ゝ形ゝ丸ゝ菊ゝ三ゝ形ゝ
大ゝ形ゝ家ゝ巻ゝ人論訓蒙

器蒙ゝ紙ゝ師諸ゝ猫毛織草ゝ品形作ゝ
英中箱ゝ帽ゝ張師諸ゝ色物品ゝ形ゝ
中ゝ世紙ゝ色物師ゝ色ゝ紙ゝ出ゝ品
形ゝ形ゝ小ゝ巻ゝ紙袋音ゝ一ゝ
ゝ形ゝのゝ張ゝ平ゝ
多ゝ形ゝ張ゝ平ゝ
ゝ朋志ゝ田ゝ廣ゝ張ゝ平ゝ猫ゝ
ゝゝ志ゝ品ゝ品ゝ巻ゝ中巻
ゝ内ゝ入ゝ形ゝ小ゝ紙ゝ
ゝゝ紙押ゝ

袋へ挿入するなり石のそれぞれ袋に分ち女の
用ると雖ども之を後三徳と称するものや
うなる紙を用ゆるようになりたる中
ふ一四沙き口紙角張紙入を田沼氏と
いふ人又どん好り有文紙なりたる大なる
袋紙袋へ何ものか此用ゆの中君安永時代彼
ものを紙さし出懐を云き懐紙と云ふ所ふ
く女の如く袖中ものを入れ懐ふ
中人時と称ふ大形袋紙たるふくろを云
細き紙すぐ袋と称へ雇ふ府志草ものを創の室を

包むこれを寸袋と云ひ創長袋のすえふ応
逆の義なれいふこれ角ふ云きのぐ形長
袋の寸法ふ応ものを以ふ形ふ只物き取ふ寸
袋と云形ふ石のさんだんぶくろ云い
ふ巾ふ北どふ寸へのふつぶくろ北きどぶ
といひふ袋ふ袋ふ袋

大和草六煙州日本より初て来る天正の初年
九月[illegible]し或云慶長十年初て来る云々先ハ
赤筒ふへくしを吸ふ法と真爺の秘符伝用法云
[illegible]しの機所ハ[illegible]孔雀[illegible]云々色音論
巻子下この[illegible]江戸[illegible]初[illegible]除丹波
たばこ云ごきせる云々色吹草諸国名産[illegible]
[illegible]張ぎきせる[illegible]肥後きせる[illegible]ハ
北[illegible]ん播州業平業世留張[illegible]二条通
安小路ふ桜屋[illegible]の育[illegible]祖[illegible]
[illegible]かやむ[illegible]ハ[illegible]

宝元京都ノ町並二条の下三条大橋の東大仏ふ
おかく住吉通に清水に坂本国まやこれ名知ル
雍州府志[illegible]製[illegible]慶長年[illegible]下[illegible]
同町[illegible]大仏通[illegible]通[illegible]
ハ[illegible]きせる[illegible]ハ元祖の製[illegible]
[illegible]烟草初て長崎の[illegible]陶小[illegible]又水に[illegible]用の役[illegible]
[illegible]桜小[illegible]
[illegible]久[illegible]
[illegible]流藤[illegible]祇三水にきせ
る[illegible]知[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]祖の役[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]上[illegible]訓蒙[illegible]
[illegible]一代男二巻[illegible]長

元和の比風俗あらためかへりて
ら箱小袖小あり[illegible]毛巾等もなびたる事なり
[illegible]ものか徒の者等[illegible]しむうのきせる
か皆長く小袖ら肩小形うつきりなる古面小多
等元たりきせる筒ら[illegible]きせるの[illegible]合の
如くきせる張の[illegible]袋小[illegible]きせるらも
きなる多くか銅袋を張角ら[illegible]きせるの張く形
しか腰中[illegible]ら[illegible]ら[illegible]し紙ら元集鞘と
頭巾の金ら[illegible]ら[illegible]指いきせるやふく
慶長寛永二年の比[illegible]大首のきせる[illegible]

しまきふくろきせる袋[illegible]ら新兵物使
おきらきせる袋に毛たてるか[illegible]ら根[illegible]板
へいとおらつくのくまきら毛立ばとか毛又きし

煙草入

昔ら和漢ら昔ら懐中煙草入と[illegible]ら[illegible]
長恵こもに事主ら煙草盆ら[illegible]ある銅金[illegible]の
むし長ら[illegible]小今ら[illegible]ら遠[illegible]去ら[illegible]の紙を
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]
[illegible]ら[illegible]の煙草入[illegible]或[illegible]か[illegible]紙ら[illegible]
又[illegible]張長流[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]
[illegible]に今[illegible]享保十七年[illegible]の切紙ら[illegible]原[illegible]

言葉絵型を地ゝ自慢者ゝ差出を北斗烟草
入袋を縮ちきし仏作之遊飲食色欲蔵新六たち
こ計ハ庠子張奉を守宿人たちこハ孝悌を
調法ものハ何ものを仏流つ動ゝ小遊女七紀ゝ
也江にるとハ揚屋へきさを抜を引ものハ
ゝ地をにいひ又揚屋のきせるハ孝人毎
をに飲を脂ものたち事ハいて先らかゝ烟
具ハ抜くけぶりを吹ゝ但ゝ野ゝけ拔山ゝハ
ものさせけものを吹ゝ也寶奈ゝ般ゝきゝゝ
物を蓄の星ハやを先ゝ歳ハ擽ものけゝ

けゝを吹ゝけゝけゝゝ火縄ことを為者前や
花火をもを山ゝ一草刻初慶長頃當時見
学者家ゝ百民推並作仙柔毎日飲藏一尼霞〇諸
駿大磯 寛永元年板 長袋のたちこのものハを
おけものハ身のかを仏煙草入とハ袋のこもき
じほを歩紀根のこを也仏ものを〇一
代女 貞享三年 売いハ下を供の為ゝ抜を玉しあき
を女色の煙草ものを也を書色の烟草ハ色紙
抜ゝしものを抜ものハ古代の張ゝ烟草を紙ゝ
色ゝものを学者くゝ也又毒ゝ抜ハ云抜色

こたらたる紙ハ水ヲ引きて紙のらうを張り小
若小ヲ引せしまゝ○円筆子立絵きせる
紙を理元と合羽の加き煙草入ヲトヽ初ヨリ
ぬらんヲ〻絵きせる真字の和紙ハ先ハ引き
せるを乾かなきハ極よ入ヲ先小ハ引
ゞし雅筵解任集花仕ヲたるこの次ヲ先き
きせる合羽かき扎ヲ入ル油紙ヲ作り
たる初の性ヲ引ゞし紙ハ京師ノ製小ハ
作いせるもの産なり京ヲ京ヲ桐油
屋ハ油紙の烟草入ヲ賣しこかや京雅版ヲ

ハ紙ヲつもたぶ入ヲ以栄花物語立
紙のたゝこ入百枚ハ文の如ク賃ハ先き糸
仕事ヲこたれもヲめん紙の類ヲ油紙小ヲ
行ぬなゞ質素ヲ元江戸ヲ紙た
ばこのとだふい一ヲ油紙のヲ引き兵製江
戸ハ伊勢の壽屋紙小ヲ久米小上品出
来ヲハ四五十年ヲ貞佐カ追善集
其後近ク出来ノ東マテサタ型ハモ朝サヌハ紙
ノタバコ入トイヘルハタ〻ラ紙ナドノタハコ
入ナルヘヲ彼小ヲ寛延ころ油紙乃元ヲ

ラ紙幡紙ホシテ廻りを かんせん縫ホシテ結ち
にく女ハ役者の役ヲるゞ ホシ隔ヨ書ラ紙用
男を無地又ハ柔強ラし ホたラ紙調ハ用或ハ紙
濃ホ沙糊を入紙交ク厚紙ハ数葡引たラ紙うん
せん縫ホシク用ラを ホ紙ラ紙ハ又ハ
ゞ紙ハ子供ラの紙ハ ゞたラめじたゞたの角
きて京紙ラ ラめし中農家の紙ハ方ラ
言上ラ ホ高し又きせラを
ホラ ホ京師のさ紙のラ方代ホ
場の紙ホ ホラ人ラ用昔ラ形のべれき

せラ紙ラの十に二三ホ ホ又女ラ紙ラ
て二つにく紙中ラ つぎあに紙角又ラ張
ホラ ホ安紙ラ張きせラのたつ
ラたララホ口ざラを紙ラ
ホラ紙ラ ホ烟を入きせラ符紙帳ホ
しきラにく紙ハ張ラ張の尖ラ紙を張
角ホシク用紙ホ革めきせラ筒紙仕ホ
ホ役勤ム者ラど一役ラ紙ハホラ
ラ年紙ラ ホ羊羹ト云紙タバコ入
四五年年已前江戸バコ 四日市井屋清藏ニテカ

マス取ナルヲ百文ツヽニ賣タリ其後松本屋ト
云紙タバコ入ノ棚ヲ田所町ニ出シテクスベ紙
ノヨキヲ製スキセルハ池ノハタ中町ニ住吉屋
清兵衛カ田沼張トモ出世ハリ氏イヘルカハヤ
リ其後水野侯カ好ミノ今戸ハリナト出来タリ
又ソノ隣家瀧口ヤ宗八ト云ヘルハ専吉原ノキ
セルヲ作レリ

らう弗

人論訓蒙字彙ニらう弗師ハ塗毛氏毛氏義奏ニ
見ハ竹ノ諸尉人ハ書中ニ弗ハ又

たゞこ入紙ハ竹ノ子ノ皮ハ草
ハ滑章師ハ形ハ竹ノ子ノ皮ハ
いとゝ共ニ諸京師ハ大ハ形ハ紙ハ竹
竹ノハ居ル紙ハ竹ノ子ノ皮ハ
弗心ハ尤過ハ東天竺ノ国名ニ弗ハ竹ノ皮
ハ初テ烟具ニ用ヒ竹ノ烟管ニ竹ノ皮ハ
しゃで何ニ用ヒ烟管ハらうニ用ヒ
ハ弗ハ疑文ハ上品ニ用ヒ豊後紙
肥後ハ作ルニ用ヒ豊後紙
疑文ハ上ニ肥後ハ

社竹紙をげたるものなり又竹紙を作ることは宗因平右衛門の奥に作りて世の中琴浦の池
花ゝにきせる竹

扇

續日本紀天平宝字六年八月御史大夫文室真人
浄三以年老力衰優詔特聽宮中持扇策杖ゝ寶
亀八年五月癸酉賜渤海王書云々檳榔扇十枚至
宜領之ゝ蒲葵のうちわ古へ扇ゝ
ゝ孔雀扇ゝ職貢令主殿寮頭一人掌供御輿輦
蓋笠繖扇云々義解云扇孔雀扇也ゝ如ゝ

北狄山前ゝ狄ゝ紫剣あるを返者人ゝ
ゝ年あるし後世ゝ
ゝ弘禮儀ゝ筋の如く用ひゝ
ゝ扇出ゝ
北狄狄永禮ゝ秋年に
しなゝ
紙扇の市の扇は後小出き
和名抄扇團扇ゝ
長ゝつゝ扇ゝ秋の白妙ゝ
ふゝ扇ゝ女ゝ扇
源氏物語
ゝ

〻孔雀ノ毛ニテ作リタル扇ヲ長柄ニつけ
〻きハかりハ用ゆ〻かなさしといフ 摺扇ハ
イツト定リモナク持ヲナルベシ取カヘバヤニ
中ナゴシ衣トモ人ニ又キカケテイト寒カリケ
レバヲノヒテ衣キカフトテマキレ入玉ヘルニ
云々オキカヘル人ハ丁ヨリ外ニ出タルベシイ
タクサワキテアフキタトウ紙ナドオトレタン
ナリ中啓 赤キカヲニ井ニ雪ノフリタルナドカ
キタルカヌリ骨ニハリタルニウチハアツキ
時ノミ用ルナルベシ 問物語ニスハヲキ方ニヒ

ルノオマシ、キテウチヤスミテウチハセサセ
テモノカタリナトスルニ云々アリ 按るに古ヘ
カハホリトイヒシコロノハミナ中啓ニテ紙扇
ノ惣名カハホリシモトヨリ異國ノモノニナラ
ヘルニアラズコヽニテ作リ出シモノトハシラ
ル物理小識摺疊扇貢于東夷永樂間盛行陸文裕
得楊妹子寫扇摺痕尚存東坡言高麗仆松扇是也
智按孫愐韻注摺扇則唐人已有矣トイヘリ便利
ナルモノ古ヘアリテ後絶タルモアヤシ雲谷卧
餘ニ陸文量菽園雜記謂今之摺疊扇一名撒扇始

於明永樂中成祖見朝鮮所貢松扇而敕制前此皆
團扇無摺疊者陳眉公太平清話亦云然予考喪大
記黼翣畫翣注形似扇文山家礼繪図亦下狹上寛
頗類今撒扇敕若古扇皆團則注翣者何團物不可
擬乃付似扇乎云々古扇不尽團信矣但摺疊与否
無可考耳按スルニ朝鮮ノ松扇ハ吳仁傑カ離騒
草木疏ニ高麗松ノヨリ云フ條取松之柔條細削
成縷捷壓成綫織而為扇上有花紋不減穿藤之巧
トアリ又有杉扇惟以杉木劈削如紙貫以采組
相比如扇亦可招風ナレ本朝ノ製ル團扇ノ形ハ

マシマルニアラズ上ヒロク下セマシ何ノ疑フ
アラン諸家カヤウニイヘルハサダカナラヌヽ心
識餘ニ元時高麗始以充貢明永樂間稍效為之今
則流行寖廣團扇廢矣至於揮灑翰墨則始於成化
間近有作偽者乃取明初名公手蹟入扇可哂

未詳　中絵
皆しらず　の名

かゝる　ハ未廣ル中絵ハ皆の教ヘ差別
あり和式ヘセ皆ル堀川後醍百首忠房卿出家ヨリ
くせのかゝるもきやつまゝかりなる
りの姿形ハ二種あり未廣ヘりけ

形心院殿の常の扇に扇は骨白き物を安爵位筆
如房五実云扇のはしかいとなる物の付て白き
物也扇骨に絵の様なる白の物を細あ
る物を付て貞丈云白の様なるかたんの
白骨と称せるなり三光院内府記云蝙
幅平七用て五猫間骨白く黒体有用て青貞
丈云公家ハ必変て素服を為す付云故
の黒色の物体の扇に黒色の骨を付て武家ハ
白色に白の様なる黒を以て表
裏の遠ひ云々

両猫目骨白しとかやい
かなるの事を思ひ出ん
海人藻蘇に猫目骨大長寸知也云昌意の久
保の五地尾に猫間骨と中絵の物かしとも
小絵の如し

源平盛衰記五西光法師トテハレ
テ清盛ヲ誉ル処清盛カ弱年ノ頃ノナヲイフニ
京童カ高平太ト云テ咲エカハ恥シトヤ扇ニテ
顔ヲ隠シ骨ノ中ヨリ鼻ヲ出シテ閑道ヲ通給シ
カハ云々後ニハ鼻平太トコソイハレ給ヒシカ
故ニ猫間骨ハ猫の目丸く細くなる事の
故遠の穴考の云なるしかれとも古説ふか
ハ有ハ蝙幅の製体学問ハ和孔

扇は板扇竹扇紙扇いづれも骨おの
つから似たりて古き時は形ち
久保の取地尾に扇形ありしが今は深草小
と云て海河抄嵯江入楚木山に幡幡形なる扇を
作り初たるものと云いひ伝へ形扇形
いふも要注を作るなり古物氏云ふ扇と名付
る扇は今世廣く行はれし也
附高中女房の扇は常の十二本骨中折きなる
ものの心也とて折て四紙を裏
扇といふものの紙にて製したるなり

祇園の扇形にて女
院山用ナニ本骨ありて骨の骨おや骨かも
女房の扇といふも又云物扇山吹扇と云ふ紙
ぎんなり　稚山吹扇山吹中たる扇と稚扇山吹と見女
房は絵を書き折心扇紙を三重ゆさ扇山重か
ものはあるいつく折たるげしものは絵
扇のおや骨ばかりの骨の葉山
色こまものの如き物語風流のもの色たるもの
平家物語高倉院小扇の紙の色きの
紅葉色丁子等或は紙絵或は彩色也喪の
時は標の紙と月骨を厚外或は弗外黒漆
骨絵小有也喪の扇は黒漆黒漆
七骨九骨十骨不用骨数四紙小扇と
骨九骨十骨不安高云女房扇記小扇は中廣心

と所々に傍注小注あり[illegible]云々と有此注か兼秋
門院の典侍石井房子説なり扇の年号紀廣
[illegible]中語也と[illegible]又横に建武元年
落書なる扇の[illegible]
在美き扇なり

梅扇

海人藻芥に梅扇僧侶か以御扇[illegible]
十五歳内侍職綾掲扇用之也と有[illegible]扇羅宮裝束の
[illegible]扇か遠扇[illegible]
史小板内の扇か官家[illegible]

是偽号板多画板作宜乗[illegible]俗曰初者擬為初[illegible]
以板[illegible]也[illegible]女房扇侍女扇男扇[illegible]いつも
[illegible]張扇[illegible]此小板彩[illegible]
[illegible]男扇[illegible]か画[illegible]
[illegible]か地と胡粉
[illegible]地[illegible]
[illegible]横目扇か板の正周(マサメ)なる故い
ふ古事談[illegible]三條院[illegible]
梅[illegible]盛[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]○[illegible]

りて定説借板の事さきに記したるがごとく
ものを定説のせいの方記を略して扇と称す本業
の板を扇のごとくにまるくせるゆえ扇の一
種なり古今に似たる物を扇と号す国醫院の扇合は
こなり」

かなめ

扇眼（カナメ）は海平豊長花なりとあかめめといへり鑿
眼なり泡頭針は鑿眼針といへり内宮長暦
遂官寄くと鑿用の針の方たこなり
花の花しかるべきものは如

く絲のおさまるべきはいとは一代
男八代記京での法しんの主宴さまの
とゝ云こと扇のうなめ月二ぎ井行きあの糸を
ち紙再おさうち陽板せ彩竹を代三文といへ
ゝ二ちゝの要なくむくゝ板のうを竹ゝを
竹雍分扇志ゝ扇心以竹造之以木針或泡頭銀
針製貫真骨於一所是謂要ゝ竹こゝ竹いは
だ絲ゝいゝ竹永代蔵三伏見の里の荒たゝ
いふ名吹毛の細工ん竹師多ゝ磨ゝ竹扇の
要刻ゝゝいゝ先彼ゝ竹ゝ刻ゝ

て業（スキハイ）とするものし大和本草に鯨和名抄云の
こゝろ〳〵肉は骨は捨て皮肉を食ひしるし猶
は頭骨は脳髄の後骨は食ふや
うに作りしいまゝ〳〵ときゝし鯨のおさ
作とまりかゝいまゝ〳〵又後のとゝり紅
梅干句ニ イソギツヽ蕪ヲ斎ノ調菜ニ安静鯨ノ
ホ子ヤ魚トシラザル 季吟 コレハ兼志ノ歌アリ
然ラバ大和本草ニクヂラノ骨ヲ捨タリト云ヒ
ハ古キナルベシ嗚呼たり草四庶の要ハ近世
迄ハ象牙鹿角薬要録陽或ハ常用ものハ
不要なりし故ハ名先きゝ不用のものゝ
りて捨ゝ殺し殊ゝ不要ハ角要ハいつまゝ中
ハ潮の管に入て仕立て故薬物ハいつまゝ人工
作費ゝ多に元文の比京師御所ハ情ハ角迄
小西八郎兵衛ハ鹿角の鯨ハ鹿角の工
夫仕出し初て製ゝ〳〵ゝ孤京笠小路ゝ千歳
要ハ号け小西氏の志似ハ大小幸作浮ゝ
一束一本
一束一本ゝ出家の礼物ハ貞順故実陳ゝ中紙ゝ
年一束ゝ進ハ必ゝ味ゝ〳〵ハ又二束

之時之扇之寸法は二寸一分半位にて
たゝ別条之俗いろ物語之扇は一寸一分
常の俗也之外条紙之扇は孫引の洞
一寸一分の俗之用る紙扇
房語園便面記寺院僧侶の右手に一寸一分の
中絵之公の旅鞄弾更ふりてたゝやあるを懸之
一の年玉之為に之扇之画きたる恵比寿の女
扇をやゝ扇こて物を見物やゝ扇を孫
の絵紙を巻てたゝ御房女中の袖扇をふるひ
り句(ナサ)をいとゝ出しこと記あきてしまい
り神扇を今の女扇の小さき扇
の扇を前の押たる扇をふる板の絵やゝ

扇

右の通り扇
右の通り扇唐筆彼集日月のまとゝ物やゝ右中
扇重次のつきの吉患やゝ陰扇定清作
扇中山集彼扇の陰扇道博致の
集之我の味方や武方扇
扇と武方扇と何知やゝ
の扇の扇口月弘出たる
の扇と紙扇と口の扇と月
の扇と紙画くを見たる人の和歌の
いろ物語の陰扇の年玉の貞享版の画

扇まつ國扇さ地さ和さたる所是陸羅扇さや
開陽紙陸羅のちまさこいと成土の事なれを成
太扇さ小い紙なる紙陸羅小而だるを紙
陸羅さいつたいたつて紙ちを用る扇紙
りまつて石引さ用る扇紙紙いしくやとも
紙さふか
まし

山敷紙　反禅扇

人偏刑紫号紙さ城遠形是根本し城遠形紙色
の西さ位まつさ井陸さ水除の山敷紙の偽六
北をるに女のまさし遠世田経扇さて一紙所
城遠い駒井氏し扇まつ女のけさトるて

城人字合みて扇ちい女し雍分扇志小山敷紙
のまい紙いるこれさ用し紙れこいの扇敷紙
紙室さ記まつのい紙形紙紙さに分な
にやこ家号紙呼紙たへか来殿こいもしこさ元
たつ五どの張このへ類又太の城殿太も城か
假字なる猪ごのなるでしまい紙へのいれし
武まの紙紙作て貴いかさい味まなる紙分
の小間紙面さ田禅扇さ一代女五紙を田経の
扇ふして深紙紙まる紙こ三筆四紙ふる紙
しさ十一本骨のやふまし中水さ茶筆

[illegible]

[illegible]

烏扇

烏帽扇多[illegible]白扇ニ烏ヲさたる扇[illegible]
[illegible]一休和尚扇賣の聲ヲ[illegible]
[illegible]北平一休ヲ[illegible]
尚住[illegible]休業[illegible]住の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]世人[illegible]扇ヲ[illegible]

[illegible]ハ解言心ヲ[illegible]
[illegible]一休和尚年譜云文安五
年是年假寓及杉俗云二本抄小菴三五口乃敵永昌坊
口之菴乃陶山公四節菴田貴扇ヲ[illegible]
[illegible]五元集ニ烏ヲ[illegible]
[illegible]烏ノ丁ハ
[illegible]ルニ本朝俗諺志世伊勢大神宮ノ御神田ヲ植
ル時称宜祝子舞奏ツル所ノ扇ノ骨ハ檜ニシテ
厚紙ニ板行ノ馬ヲ画クコレヲ以テ熱病ヲアフ
ゲハ則サムル又田ヲアフゲハ稲ニ虫付ズ按ル

ニ此時大ナル扇ヲ持タル者多ク出ル六田樂ノ
高扇ト云モノ心古語拾遺ニ稲魚ヲサクル条ニ
以天押草押之以鳥扇之ト見エタリコノ鳥扇
ハ草ノ名ナルヘシ外宮御山豊宮崎御田植神事
扇持五人御田扇トイヒテ凡六七尺ハカリノ扇
一本ツヽ持扇ノ画色々ニテ定ラス各素袍烏帽
子イヅレモ老人ナリ顔ヲ紅粉ニ粧フテ踊リ行
世ニ流布スルハ長官ノ宅ニテ貴ヒ帰ルナリ檜
ノ骨六本ニテカタハカリノ物心トリ又楠部村
御常供田五月吉日大御田神事アリコノ御田扇

神事アリコノ御田扇ハ三尺ハカリシトイヘリ
田樂ハ田ヲ祭ル舞乎ナレハ古語拾遺ニミエタ
タル故事ナドニヨリ高扇トテ大ナル扇ヲ用ル
ヲアリ御御神事ノ御田扇コレナリ

扇懸

書画ナト出タル扇ハ床ニカケテ甲陽軍鑑九
ニシ板の行ヲ知ル扇の掛ヲ有ルヲ云
ニシ板ハ板ヲ切タル床ニ形行ヲ扇ハ掛ルト
あれハ中行シ凡ハ扇ハ中ヲ三ツ折ニ紙ヲ
ヲヲヲヲ孤流ヲ作ル孤角ヲ作ルハ陽

此家の由緒をかゝ

圓扇　家良うちたる　判物

伊派うちたる

人論訓蒙器量を奈良うちは春日の社人の中

小是法橋と京を油小路中立賣上る町に有世

大坂長町に作る野人等の拵にして判物

うちはさまの画かゝ代物を陽に成しを添れ

ば求む脇に小刀の作有之候いて後に的

の流れ作り長し義の圓扇に年〳〵作る洛陽

集三笠山義に散り福笠圓扇所に又延宝三年

の南都名古集に圓扇賣の者の後有一代女

三高夢を絵油の光の〳〵判事物圓扇の沙

汰貞享の初かくい〳〵に北代絵油に用ひ形

桑末義の事為に出代判しうちに派うちあ

ふげいいりを荷のうや賣を〳〵の策を〳〵郷

優遠摩の桑石集に村の画として圓扇に〳〵

きたる門を判しおうちに有常の如き圓扇の初

徳川家を兼三田志の遠義代寛延二年九月二江

四郎まいりの三圓に同四年年末に

戸を〳〵に世代に申しこゝに四圓扇に代派を物

遠武田家の定めを〳〵を拵の色和に一蓮寺うちに

一年四〳〵に諸人語を〳〵に物代に武を跡長

ふくあしきものなりと甲陽軍鑑ふみこのうちの門
狩衣うちかたびらだふ狩りぬるかやせに
賀茂神の深うちもしいしく雄長老狂歌ちきれ
ゥ祀関扇うちに二三本ふとかしたり神社ちかきいる
をしたもとを引剥ると云狩うちまたに賀茂神の作とし
いづれ我ホの事歟ちく二三本ちかき夢いる
せしをいづくゝ語ぶ君をくゝや又梅津のうち
絵名物ゝ賀茂神うちに絵狩うち永代夢ふ
(ニハイキ)葉帯深うちもく賀茂ちく祈といづれも ちく又
賀茂神の狩を狩るふくちの人形ゝ弦の衣抵

沈中沈名を深うちもたせたり扇扇ト云
今ノ洲濱ノ歌ニ似タリ今ノ扇ニ此歌ナシ
古画ヲ見ルニ寛永正保コロモウチハヽ皆タン
セン歌ト云モノヽ

流水のうち

貞享ちう云孫のもと光女ハ門ゝ居ちく弁ゝ出
ちくゝ左扇ゝ東の代扇沈狩師宣ちかちち
絵本百女狩ゝ光彩画ゝ共角ちう花つゝ集元孫三
年ニ門ゝ六ちう糸に張ちのい浦室ゝや寺ゝで
付ちなる沈紅ゝ扇のふさのふちかいる北沈

江戸のもとあり代雇多府志小網代うちつく竹
外別あり連枝の外を面を漆くて塗たる外
塗うちもしくは進世或は間を竹を柄しるの
束外細く刻く上く紙もかく砂紙ぶりを外婦人
女子者用といふ竹の間府小長き面くと
くを製之しきものじ紙外貼たる小進世しい
るいの神仏いるを

楊枝　木の子ト

釋氏要覽く諸経を引て嚼楊枝を外いふ牙杖
を佛家より始りしるべし　されと楊小天竺く

なるものとして義淨う南海寄歸内法傳く委しく
えたるもの説く云歯木者梵云憚哆家瑟詫憚
哆譯之為歯家瑟詫即是其木長十二指短不減八
指大如小指一頭緩須熟嚼良久淨刷牙開若世遍
近尊人宜將左手掩口用羅摩破麁所刮舌人茅状く
掩外つるりりなるにこと外法りる出或可別用銅鐵作刮舌心
篦或行木薄片如小指面許纖細以剔斷牙麁所刮
舌分令傷損牙枝内祭行を小用ひたる必ずる蓋
家神祭とて石の面く刻をしさ
りて木の　ふしつ
外他へたるか何ものさかしらなるものうと抑意
義なるき事なるものうと
秋所間張く木の着内張式く出又着竹外たて仮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

集三アル僧袒家ノ請用ニ行タル処食者ナレハ
食後ノ菓子マテ至極セメクヒテ楊枝ツカフト
アルモ菓子ニ添テ出シ、ナリ女鑑寛永ノ後の書芸安三年
板
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

此四指弦三寸ばかりを俱舎と一附と称て一丈
八寸と定めて此四指附はいまだ無れば四指の
三寸ばかりなるを最大なりとして一丈二寸最小三寸を
中ハ意に任せべし三本ハ古代に定り法し六寸
の弦用ふと云ふ延喜に雅楽寮の
しるし寸法かくのごとくこれ
古画弦を張り寛永年後天和貞享
に始まる歟の大さ
壺形
瓶
琴
琵琶
西京雑留に紙張る人の妻となる
異紙に壺形の
さまざまの紙をおき食度に必ず弦用ふ
ちなし大和本草に注せしの皮を
用ふ草木穂に似たり弦
たるもきふ弦の
戰太鼓 鼓人の
分の大琵琶三節に
ごとく一弦
ひ弦ぬぎで
同じ琴琵琶の
琵琶を
世間
大きい

ツ形の仏陽板を指こみ刻み古色に花形厚刻こた
の花びらを小さき陽板に出来て毒形なりしを板
中にもさきりしやや又西洋の大徳と元宗時
節に根本座を陽板にて芝居流の定紋とうち
つ市垂にこの所を作りの俳諧集に野郎の紋
角に角金の白作りたりし師匠まいへ
り思ふに紋の模様作り陽の本の軒に板きの板
の模様新たるものとも又紋ものしの俳諧
版を造りて三幅の板出をを女形
なる業子をきやうし　を表これ板の刻まるる

陽板さし

男女ここに陽板をもとふるの昔を形をる
かくはるるつる造りて彫の小を巻にてしを
したうる女の板にて切りて手紙たる
角に横しに沈香を色に付工夫を黄土作
紙に小く板へたる所又形にして表む
にたるに所ここかく小面をなりて奔狂を板
ををりたるかくいふ奔狂を宗延作を号小
て陽板に小くなりて彫刻

揚枝と靈所とは事

世につたへたる揚枝か折て振まはしたる事

多く時々怪所とも出し又揚枝か二つ三つなどを

分女房の姿にふるまはしめ揚枝の神仏の霊験の

男をいせんふ知恵して化物とも見せて有て

うたいたるものなれば近く知恵

をもつて是をこの男いかにも善かのまね

しを為一と神神をふかせれば中まもりてよ

せまつるふるまひ外にいとけなきあひし

らひもなれば小揚枝うたるとつゝみかき法華

てきやかもしとせいとも知るてあむ

あひをうてうかるものとなれば

を知をて驚き逃出るなれば

されいやしに霊あるにいふをくしき俗

信ゝ也此の摂を上に引る寄帰傳の文をて

くいん人家をあ知に業をふ歌つまをぎさるし稚

稚の法所を出をしれば衆あるといふて俗所

合をゝいかし事と新に世話を明暦二年板恋部

小長揚枝に見揚枝ゝ所きか伴の物語のかたた

揚枝ハうゝをして後ゝ逢をき是ふ

て楊枝を歯にあてしに錦蒲鉾共角ノ張味
爲ふくれやうの編笠七夕を楊枝をうるといい
ひながら仕掛せる悪ふたりまの用○江戸小
て楊枝商人の多きい陸奥ち境内を楊子多売
神商人ちくりとりあむ昔を茶筅を楊枝
梅のうへ小道へ並て賣たりと花見客来ると
ひしきものといいるおぼつかなし

塩砂

こが孔砂を入て賣り歩く江戸
原より歯茶花もあり仲川町入歯師安藤歯志日本

指南三丁目小花屋入深川町茶屋新兵衛
とて黄ばみたる花を茶の緑砂と云事諸説大
違なれ共たゞ雑説なるこの方へたるの
こゝ四又明暦二年の世話を白雪山の名記い
のこ如く砂楊枝を作り似たる谷に食義作枝
楊の末を花うゝ者を漢土にいか先を白歯茶と云博
聞類纂巻十磁器を陶法に用白歯茶擦則光澤
ゝ作れ小人ゝ墨こうきの報帳おうしく
書ゝ云さ北の姫じ小子たり後義ふ小おうし紀引ふ
ゝたり江戸ニハ常二房州沙ヲ水元ニテ龍脳丁

子ナト加ヘテ用諸列ニモ白沙又白石等ヲ粉ト
シ又ハ米糠ヲ焼テ用ルモアレド房州砂ニハ反
ハス故ニシカキ沙江戸ニマサルモノナシ
次ニ云ル云ル蓋ハ[illegible]ヲ業トスルものたく
ミ少シ有リ沙石集巻七南都小蓋百人所ヲ
所ル在家ノ恠貧ナルものの百人ヲ[illegible]ヲ
ヒ食蓋ハ[illegible]ニ一ツ百ヲハ銭二文のさた
光ナルハ一文ヲ[illegible]ル心まのたく
さにふつりとしたる[illegible]ハ三文ヲ二ツヲ[illegible]と
[illegible]出ル[illegible]蓋ハ[illegible]ヲたりとシル物

かたり所ハ此度人まこ[illegible]異国人ゆや[illegible]世の
山うのまきものの類

梳

いかゝ[illegible]ヲ梳薦梳篠梳枝梳荒梳ハの小梳ハ
とシル是ハ葉ハ米ハ[illegible]梳ヲたり[illegible]や[illegible]
ハこゝにハ振り梳ハ義ヲ[illegible]天竺ハ[illegible]ハ梳
ハ用ル[illegible]ヲ霞梳ハ[illegible]と南海寄帰傳ニいハ
漢土ニハ王虎梳ハ[illegible]いと古ヲ[illegible]
[illegible]物紀原ニハ甘露寺職人ヲ[illegible]梳賣ヲ[illegible]
[illegible]一の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]の梳ハ[illegible]雅別序志藤梳の条

良賤嫁娶夜必用之故新婦携一雙而行是又婚礼之一端也或謂殿枕倭俗崇男子称殿故尓造之者唯一家在室町南草枕畳枕獏形枕黒漆塗枕等鳥尤下五責北と称る藤枕ふるにや虎の枕なとい方術の系にいて猫枕と十訓抄と述大寺の衣たとうもまかせるといふ如房のもと獅子のかたち如たる茶の枕をもちて之と北茶枕といふ俗と漆塗のものとなるの事しおもふたとたとは為るべきい獅子といふ寒い獏を避邪の類なるべし又

雍及庵志囊屋の條に北条氏康一度枕屏風を作らしめこれを枕屏風といふ皮枕に云ふ皮を皮面にして人倫訓蒙図彙小いて○後世入子枕と云ふもの所蒔絵の細長き紙五つ七つに数多く入子にして蒔絵箱枕といふ琉球製にや中山伝信録小蒔絵箱枕といふ事妙なる変しかり物語に云ふ蒔絵図師将来の器物といひ給ふ云ふ物小蒔絵と花蒔絵の神仏の花なんどいふ紙箱にして一つ

[illegible]二つ三つ[illegible]
[illegible]又古[illegible]
一つ箱の中[illegible]入[illegible]
[illegible]張りし[illegible]
落[illegible]
中人以下[illegible]
[illegible]常[illegible]
十[illegible]
[illegible]
[illegible]常[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan